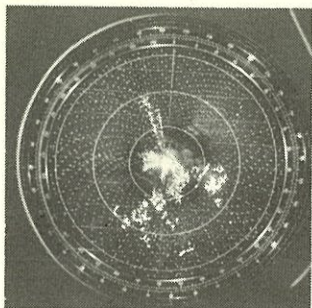


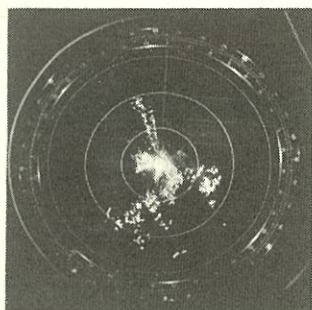
調布祭 20th
Nov, 6.7.8.



電気通信大学



30哩レンジにて干渉波を
受けたところ



30哩レンジにて干渉波を
除去したところ

安全航行が当社の願い!!

レーダー干渉波除去装置SYRAM

◆一般仕様◆

- (1)作動範囲は、近距離の時は約8哩、遠距離の時は約30哩で、それぞれ中心から作用するが、その中のまま移動させることも可能である。例えば、10哩の位置から40哩までの間をデフルーツできる。
- (2)電波の質には全く影響を与えず、距離・方位にも誤差を生じない。
- (3)消費電力はAC 100Vで約38VA。
- (4)ダイオード、トランジスター、MOSIC等使用。
- (5)配線は75Ω高周波ケーブルで、トリガー、ビデオライン各2本およびAC、リーレー各2本とアース1本の計9本。
- (6)トリガー、ビデオシグナルの各特性を合わせれば、大体各種レーダーに使用可能である。

(営業品目)

各種無線送信機、受信機
各種レーダー
ファクシミリ・アーマライザー
エンジンアナライザー



協立電波株式会社

本社 〒153 東京都目黒区上目黒1-3-13 TEL (03) 712-3111
八王子工場 〒192 東京都八王子市石川町2968-3 TEL (0426)42-9211

支店・営業所 神戸・横浜・玉野・下関・福山



卷 頭 詩

われ星に甘え、われ太陽に傲岸ならん時、
人々自らを死物と観念してあらんことを！
われは御身等を呪ふ。

心は腐れ、器物は穢れぬ。「夕暮」なき競争、
油と虫となる理想、——言葉は既に無益な
るのみ。われは世界の壊滅を願ふ！

蜂の尾と、ラム酒とに、世界は分解されしな
り。夢のうちなる遠近法、夏の夜風の小鍵
の重量、それらは既になし。

陣営の野に笑へる陽炎、空を隠して笑へる齒、
——おゝ古代、——心は寧ろ笛にまで墮落
すべきなり。

家族旅行と木箱との過剰は最早、世界を理知
にて笑はしめ、感情にて判断せしむるなり。
——われは世界の壊滅を願ふ！

マグデブルグの半球よ、おおレトルトよ、汝
等祝福されてあるべきなり、其の他はすべ
て分解しければ。

マグデブルグの半球よ、おおレトルトよ、わ
れ星に甘え、太陽に傲岸ならん時、汝等ぞ、
讀ふべきわが従者、

(中原 中也『地獄の天使』より)

目 次

3	基 本 方 針
16	短大実行委員会アピール
21	催 物 日 程 表
22	講 演
24	映 画
27	短 大 講 演 集 会
28	ク ラ ス ・ サ ー ク ル 企 画
34	模 擬 店
35	サ ー ク ル 論
43	前 期 執 行 委 員 会 中 間 総 括
48	建 物 案 内 図
50	学 内 案 内 図

基 本 方 針

調布祭実行委員会

I 大学祭について

60年代後半の学園闘争は、学生の社会的位置、大学の役割等を明らかにした。従来の大学が、一般的に学問の研究、教育の場であるという幻想は払われ産学協同路線の下、労働力商品再生産工場として機能している現実が明白にされた。そして、学生であること、学問をすること自体が、現体制の維持発展に資するという認識から自己否定運動へ到った。自己否定運動が自己と政治との関係を問題とするために、不可避的に国家権力の問題に関わってゆく。我々の現在の位置がすでに矛盾である以上、我々の諸領域での闘いは、不断に、日常的に、有形無形に行なわれざるを得ない。大学祭もまた例外ではあり得ない。

大学祭は必ずしも運動と無関係ではなかった。ただ自己と社会との関係を考えるとき、その前にその関係を関係として存立させ、持続させている条件を明らかにしなければならぬにもかかわらず、それを怠っていたり誤っていたために、大学祭の位置づけを誤り、低迷さの要因となってきたのである。その結果位置付けられる大学祭は一般的に2つの傾向にわけられる。第一は、平和と民主々義をスローガンに「統一と団結」を訴え、「創造的大学祭」を叫ぶ大学祭である。このような

大学祭の誤謬は、学園闘争で大衆的に明らかにされた「民主々義の神話」を無批判に受け入れていることにある。我々は、ここで「平和と民主々義」論を全面的に批判することをせず若干の批判にとどめておく。彼らの言う「平和」が現実的にはどのような内容をもっているものであろうか。法的に抽象化された形式的な人間を第一義的に考える戦後民主々義の国家支配の様式を容認する点において、何よりも先ず、秩序の維持された状態である。すなわち、それは支配被支配の関係の安定・個定を意味するものである。現在の矛盾は「平和」の名の下に表面的に処理され根源的に解


書籍 雑誌・地図
日本法令・図書券取扱

株式会社 真光書店

京王線調布駅前通り
TEL (82) 3854

決されることはないのである。このことは、国際的に「平和共存」について考えるとき一層明らかである。「平和共存」とは支配国家間における利益と損失との微妙なバランスの生み出す状態であり、従って、それは表面的には、ヒューマニズムに基づくかのようにみえても実際には、南ア、ローデシア等の例をみるまでもなく、支配の原理に従って動いているにすぎない。そしてその「平和」を維持することの方法が「民主主義」である。人民の自然的・人間の本質から発する要求は全て議会を通ることを強制し、それを歪曲し、卑劣化することによって変革へのエネルギーを吸収分散させてしまうのである。大衆の政治への関心を、高度に分業化した社会の中の議員という専門家に収束させ、大衆と切り離されることによって無力化した議員によって議会を構成させ、議会を審議会化しているのである。そしてこのような議会制民主主義の枠を突破して政治に参加する部分を圧殺する役割を負ったものが裁判所である。自己存在を議会そのものが、我々が打倒すべき政治的国家と市民社会の媒介として存在し、自己存在を普遍的存在として偽制的に成立させる為の実体的機関としてあり、階級対立の曖昧化、

抑圧を行なっているのである。例えば裁判所は思想は裁くことはできないと称して、既制の社会秩序外で闘う人間の行為のもつ意味・背景——社会性・思想性——を一切、切り捨てることによって実質的に彼の思想を裁くのである。そして、そこでその行為を誤りであったと認めさせ、認めた人間の処分は軽減し認めない人間と差別をし転向を強いるのである。ここにおいて裁判は、階級的な役割を負っているのである。このような内容をもった「平和と民主主義」の理念を基礎とするような方針をもつ大学祭は我々にとって明らかに階級的な敵であり粉砕の対象である。もう一方の傾向の大学祭は、過去の調布祭等でも見られたような科学技術の発展に基づく物質文明第一主義を打ち出したものである。このような傾向を極端化し、現実の矛盾を全く捨象したものが「万博」である。万博は権力の側からなされたものであり、大学祭が大衆の側からなされるとい違いはあるが、大学祭が大衆のある程度の自発性から成っているために一層危険な傾向をもっているといえる。大衆が物質の生産に没入し、これを軸としてブルジョアジーに組織化されることによって、その世界はますますせまくなり、更に労働者



モダンジャズから
クラシックまで
(有)トキフレコード

本店・調布駅前通り緑屋前 TEL (82) 8047
楽器・楽譜専門店
(有)トキフレコード 楽器部
支店・調布駅前天神通り TEL (86) 0427

階級の内部からアトム化された労働者を賃金を環として組織してゆく体制である。我々はこのような大学祭もまた粉碎しなければならぬ。

大学祭の主要な2つの傾向を、我々は批判したが、それでは大学祭とは我々にとって何であるのか、そして何故大学祭を開くのか。現代的に学生の共同体としての結合が破産しており、共同行為として存在する調布祭もすでに破産している。従って大学祭そのものが、我々学生総体にとって何らの意味も価値も持っていないのである。(ここで自己と共同体との関わり・基軸の問題が出てくる。共同体の問題をぬきにしては大学祭を語り得ない。我々は次の章でこの問題を展開し、更に、その次の章において共同性に基づくサークルの問題を取り上げる。) それ故、我々はこの問題に充分答えることはできないが、大学祭に何ができるか、と問題を設定するならば、大学祭の主要にかかわる領域——文化運動の領域——において既成の価値意識の再検証を促し、新たな価値意識を樹立し、我々の側への再編へ向けて組織すること、そしてそれを「観客」^①として登場する部分に対してつきつけることができるのではないか。しかし既成の価

値意識の再検証をするとき、大学の閉鎖性というものが大きな問題となって来る。現在の我々の創造主体は、学内の諸サークルや個別活動化というものに限定されるため、創造の水準の大きな飛躍を得ることが困難である。このような状態を突破するため、地域の創造的な文化運動、社会運動、政治運動を担っている部分と結合することにより、お互いのレベルを高めるとともに、個別の大学祭(=調布祭)という枠をのり越え、地域の運動としての位置すら望み得るのではないか。現在のように高度に分業化された社会において大学という閉鎖的な集団の内部から、地域への解かれた大学をめざすことによって大学解体を進めることができるのではないだろうか。(我々は最後の章で大学解体の問題を取り上げることにする。)

株式会社



東京現像所

【営業品目】

70^{mm}、35^{mm}、16^{mm} 各種映画用フィルム
現像・焼付・縮少・拡大・各種光学焼付その他


東京都調布市富士見町2丁目13番地 郵便番号182
電話 調布(0424)(84)2171(代表) (82)2433 (営業部直通)

Ⅱ 共同体論

(一) 国家本質の内在性

宗教—法—国家とつなげて、つまり、幻想性の外化として政治過程を把えてみるならば人間にとって、最初に表われたのは宗教であった。宗教の意識は、自然崇拜や偶像信仰や汎神論を経て一神教の神学へととなり、その意識の中では、人間は自分の本質を対象化し、この対象化した本質を、再び自分の対象にするということを行なう。神とは、人間が自己意識を無限であり、至上であるとする意識の対象化されたものである。そして、神は人間にとって至上物として表われ、人間は第二義的なものになるという逆倒した関係が表われる。この関係こそが、宗教—法—国家をつなぐ本質的なものである。即ち、この関係は、政治的共同体の内部では、法を至上物の様に考え、それが国家法に実現され、自己意識の中で人間自身を二義的なものとする様に人間にはねかえってくる。この自己意識の総和としての共同意識を考えた場合、即ち、現実社会の中では、社会の本質を政治的共同性として疎外し、人間は社会的に政治的に二

重的存在となる。社会的生活では、私的に具体的に現実生活の中にあり、けんかしたり、なぐさめあったり、他人より有能であったりするが、政治的生活では公的な共同体の一員であるかのように生活する。つまり幻想生活の中にある。要するに、政治的な共同体が整備されると、すなわち近代国家では、宗教と人間の関係は、法と人間の関係となって表われるのである。法（憲法＝政治的国家制度）は、家族や市民社会が、自己から疎外した形式上の生活上の生活過程を集中したものであり、普遍性の宗教的天国である。そして、政治的国家を形式的国家を形式と内容との幻想の合一として支えているのは官僚制である。つまり、幻想国家は市民社会を限るのに行政権をもって行なうのである。そして、市民社会においては、職能人としてしか表われない人間は、部分的な共同意識を職能共同体という小さな国家をつくる。これは、国家になるうとする要素であり、この要素を政治的国家に対してさし出すのである。要するに、政治的国家が、実体として官僚制という別の国家、あるいは国家の職能団体を作って法的に向うとき、市民社会は、職能団体を市民社会の官僚制としてこれと密通するのである。



エレクトロニクスで未来を開く

NEC
日本電気

本社 東京都港区芝五丁目7番15号
TEL (03)452-1111(大代表) 千 108

(二) 国家—憲法

宗教のように、何々教という形ではなく、普遍的に表われてきた法を普遍原理とする国家に対して、反作用として、人間の個別的な、利己的な原理として市民社会が登場した。ただし、宗教は人間の自己意識の無限性の意識の表われとしてあるのに比べ、市民社会は法、国家に対しては、人間と人間との関係の無限性のような姿をしている。市民社会は、政治的国家と現実との国家の二重性をつなぐのが憲法である。立法権は、国家を普遍性として組織しようとする権力であり、政治的国家の全体を意味している。この法による国家の二重化は、市民社会内部では、教養とか富によって別個に存在する私的な階級であったものを、市民社会を政治作用と意義を持つものに転化することによって、公的な階級を形成する。

(三) 家 族

宗教・法・国家が自己幻想—共同幻想というある意味では同一の関係として扱えるのに対して、家族という共同体は、別個の基軸を設定しない限りなにもわからない。即ち、自然的な性行為を基底としつつ成立する。男—女の対となった幻想の共同性である。共同幻

想の最高形態としての国家とは、位相のまるで異なる共同性で、国家には人間は抽象の人間としか登場できないのに対して、男—女の対幻想には、自然を媒介とする結合ゆえに、具体的な人間が登場するのである。そして職能共同体が国家へと密通できるのに、家族は国家に密通できず逆立した関係しかもち得ないのである。この対幻想という本質は、時代の変遷に従って、あらゆる家族形態をとることができる。地域や種族によって異った現実形態をとることができる。しかし、社会の共同幻想と個的幻想とも違って、常に、異性の意識をともなってしか存在し得ない幻想性であり、一方の意識が他方の意識のうちに、自分を直接認める幻想関係である。そして家族の本質的な点は、我々が、様々なしかたで他者と出会うが、個人が性としての人間から他者と出会う根源的な場所であるということである。

(四) 大 学

大学の共同幻想が何であったのか、それは真理の絶対性、科学の普遍性であり、それに対する所の学問・研究の自由であった。即ち大学共同体は、外には真理や科学の絶対性、普遍性を至上物とすることによって国家へ密

◆ 営 業 品 目 ◆

無 線 通 信 機 器
半 導 体 精 製 装 置
超 音 波 応 用 機 器

誘 導 無 線 機 器
高 周 波 応 用 機 器
計 測 器 ・ 部 品



国 際 電 気 株 式 会 社

本 社 東京都港区芝西久保桜川町9 東京 (03) 503—2 2 1 1
大 阪 ・ 名 古 屋 ・ 福 岡
羽 村 工 場 東京都西多摩郡羽村町神明台2—1—1 福生(0425)51—6111

通し、内には学問、研究の自由によって内部秩序を形成してきた。

我々が暴露してきたのは、社会的分業の一職能団体としてある、大学が、科学や真理を、政治的国家と密通させながら帝国主義的再編を進行させていることであり、科学や真理の普遍性・絶対性が、現在の資本主義体制の基においては階級的なものであるということ。学問・研究の自由がブルジョア的自由でしかなく教授という社会的特権階層の地位保全のかくれみのであり、教授—学生という支配—被支配のいんべい物であるということ。以上につきると思う。

Ⅲ サークル論

「分業による人格的な諸力（諸関係）の物的な諸力への転化、これが再び廃止され得るには、それについての一般的観念を頭の中から追い出すのではためなのであって、諸個人がこの物質的諸力を再び自己の支配下に服せしめ分業を廃止するのてなければならぬ。このことは共同社会〔Gemeinschaft〕なしには不可能である。共同社会のうちのみ各個人にとって自己の素質を全面的に発展させる手段が存在する。それゆえ共同社会の内てこそ人格的自由も可能となる」

（ドイツ イデオロギー）

再三問われてきた問題であると同時にそれが潜在性の中で混迷状態としてあり、凝結を見ない東大闘争、日大闘争、そして我々にとって具体的過程をもって展開されてきた電通大闘争が提出しあばき出していったものが何であったのか？それは突出した部分によって叫ばれた「幻想払拭」の言葉が抽象するように大学という社会が、Gemeinschaftではなく多くの教授の笑みに卑猥にカモフラージュされた利益共同体の一機構にすぎ



オリジン電気株式会社

半導体電源装置

シリコン・セレン整流装置
サイリスタ整流装置、調光装置
受配電装置、無停電電源装置
インバータ、コンバータ

本社及工場 東京都豊島区高田1丁目18-1 電話 458-1171
大阪営業所 大阪市福島区上福島南1-47 電話 262-0555
サービスステーション 札幌・仙台・金沢・名古屋・広島・松山・熊本

ない幻想的存在であったということである。我々が大学を教育研究の場としてとらえた時そこにはすでに一つの幻想性が我々の内に含まれていたし、四年間の大学マスプロ教育の中で知識の断片をつめこまれ社会に出る。それは正しく日本という社会、資本主義経済体制の中の中級労働商品生産工場として機能する存在としての「大学」だけの意味でしかない。そういった社会構造が賦与する現実の中に様々に動くのが我々なのである。その大学自体の社会的存在故に政治過程へ矛盾の極限化された形で巻き込まれ関わっていった部分は、普遍的問題として我々の前にそれを露呈していった。しかし、そのような大学の疎外状況を主体的に受けとめて意識性として積極、消極を含めて政治へ関わってゆく部分と、何の疑問も持つことなく日々を送る部分と、学生層、サークル、及びサークル内部における分離が、緊張関係が熾烈なほど進行していったのではないか。そしてサークルそれ自体も大学という疎外形態の内に存在し成立し大学の矛盾を直感的にも感じた者がそこに部分としてもかなりの割合の生活基盤を持ってゆく。そこに至って社会状況をサークルも反映し、当然のこととして背反を生むと同時に対立状

況を発生させてゆく。

戦後、サークルは戦争によって規制されていた「自由」がアメリカによって押しつけられた幻想としての自由が獲得されたとして、その基に結集し動いた段階ではその様な問題意識は生じなかった。しかしその日から大衆は政府の政治への視点を着々と貯えてゆくことになる。そして、六十年安保闘争は戦後大衆の日常的不満の自発発生的な大衆運動として開化し、新たな状況を切り開くことになる。安保による大衆運動の高揚を發展止揚させることを指導できない既成左翼に対する絶望は主体的な自身の力量を高める必然性を生んだ。そして、既成左翼の欺瞞性を顕在化させ六十年代の運動のもとへ形成してゆく新たな運動の展開のもとに明らかにされた常識や既成の理論の解体と、非妥協的ラジカルさの中からの価値の再構築過程は学生層に背反状況を生み出しサークル内部と運動に分離状況を生み出した。政治状況へかかわる部分とそうでない部分との背反はその非妥協性の前に新たな展望の欠落へと落ち込み、前者は政治過程への登場を期し、後者は日常的趣味サークルへ埋没していった。

現在のサークル内部における停滞状況が

つねに未開の分野に挑戦する！

超音波機器をつくって20年 つねに変わる
ことない海上電機の本 motto です。

そして今日、唯一の超音波応用機器の総合メーカーとして、その実績がきづきあげた信頼をお届けしています。



海上電機株式会社

東京都千代田区神田錦町1-19
TEL (294) 7 6 1 1 (代)

在る。しかし、これらが最早あれこれのサークル運営技術の問題としてではなく、サークル運動は何のために、何故に必要なのかというサークル運動における最も古くて新しい問題を根底的に問い返さなければならないであろう。サークル理論における定言として「サークルは人間解放の場である」といった捉え方があった。しかしサークルに集まることにより、そこでの「民主的」雰囲気や、「なごやかさ」、そこでの「楽しい」催しに浸り何事かを行なっていれば、「人間性が解放」され「民主的」「楽しい」「良い」社会が生まれて来るというのであろうか。あまりに陳腐な観念としての規定性としてしか作用しない。何故なら現代社会において「疎外」の貫徹している状況の中でサークルそのものが真空状態の中に自生しているものでない以上、前述のように無関係でいられないであろうし、サークルを運営し参加しているところの者の主観的意図や「善意」とはかかわりなく、客観的にそれが、現「体制」によって生み出されて来る矛盾をサークルの場で表面的、気分的に解消させることにより、サークルの閉鎖性を招くものである。

サークルにおいては媒介現実化としてのコ

ミュニケーション（この他への働きそのものがサークル運動における原点でもある）は、同時に2重の側面を持つてであろう。すなわち一個の運動体から外に対しての表出は、その行為が他者の中に自己を2重化しようとする個人動機及び他者の中へ2重化された自己を見つめ自己のSituationを確認し、自己検証を実践的行なっていく過程としてある。この主体と対象の関係として自己と他者（その関係を多面的に媒介とした自己とサークル）が存在しているのである。そして、その主体と対象との相互的な働きかけ合いの中で両者は初めて個別の運動体を超越したところの両者を含む新しく、より大きな運動体が形成され得る。しかし、現実に大学内に存在しているサークルにそのような一面理論化されたパターンは適応性を持たないことは明らかであろう。何故なら、そのコミュニケーションとしての言語そのものも喪失している。すなわち、他者によって常に自己自身は規定性を持つにもかかわらず、他者への関りの持つ問題が様々な要因を持ちつつ疎外性を含んでいるからである。我々にとっては現存のサークルは、多分、全て否定的でしかあり得ないだろうし、他者へかかわる場合の永続的な

営 業 品 目

各種方向探知機・模写電送受信装置・各種ラジオ・ブイ
電波距離測定機・ $S S B$ _{$D S B$} 無線電話装置・遭難自動通報機
ロラン受信機・各種テレメーター・自動券売機

太洋無線株式会社

本 社 東京都渋谷区恵比寿西2丁目20番7号
営業所 札幌・神戸・福岡

否定としてしか現実過程はあり得ないだろう。そういった否定的関係の中で共同体としての基軸を求めつつある現在、多くのサークルが混乱状態としてあるのはその関る対象に対する基軸が意識の中において崩壊喪失されているからである。仮にではあるがもし共同体としての基軸が有るといふなら、恐らく基軸を確立してゆこうとする正の要因を持った部分の潜在的結合軸であろう。

サークルの現在の状況を止揚してゆく過程としてあるのは、内部の対立により緊張関係に持ち込むことにより、それは正の要因を持った部分にとっては趣味的日常的部分との対立でもあろうし、その分裂の中から新しい共同体としての基軸を鮮明化することであろう。

Ⅳ 大学解体へ向けて

はじめに

全国を席捲した全共闘運動は、それまでの大学のあらゆる神秘的ヴェールを剝し、そして大学、そこで行なわれている学問の存在基盤・機能を暴露し尽した。全共闘は全国の至る所で運動のヘゲモニーを確立し、昂揚期においては、ある程度の〈勝利〉を獲得した。が、現在、闘いは後退局面を余儀なくされている。例えば、電通大闘争は69年2月27日機動隊導入、4月21日試験強行、以来〈大学正常化〉が定着しつつあると言わざるを得ないし、街頭闘争は、秋期安保闘争の敗北後、カンパニア闘争に終始している。ここに我々は、後退局面の打開・反撃の軸を設定し得ないまま今日に至っている。この今日の状況を如何にして打開するのか？ 電通大闘争の再編を如何にして克ち取るのか？ そして、これからの闘いの方向は？ これらの間に対する解答を、調布祭を足掛にして、実践で答えて行きたい。

(一) 大学解体と調布祭

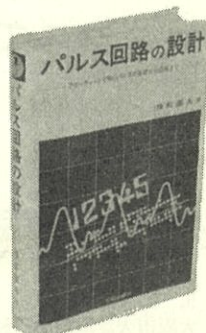
我々は調布祭の中の大学解体を以下の様に

●絶賛好評発売中● パルス回路の設計

＝フローチャートで学ぶ基礎から応用まで＝
パルスの基礎は本書独自の編集技術と豊富な波形写真により、的確にマスターできます。

A 5版 240頁 猪飼國夫著 定価 700円

C Q 出版社



郵便番号 170 東京都豊島区巣鴨 1-14-2 Tel 944-0311(代)

位置づけたい。

まず第一に、調布祭で何を獲得するのか、という事が問いの答えとしてある。即ち我々が調布祭で獲得すべきものは決してある種の理念——過去の調布祭で基本方針→統一テーマとして現われた理念——ではなく、具体的、実践的「何か」でなければならない。即ち、新たな価値意識の樹立と、その全面的外化である。

第二に、我々が新たな価値意識の樹立という場合、その作業は、既存の価値意識を与えている学問・教育・大学の批判、特にその存在様式の批判を通して行なわれる。否、既に我々は全共闘運動において、これらの批判をして来ている。従って我々は、我々の闘いの中に調布祭を位置づけたいのである。だから調布祭の中の大学解体ではなく、正しくは、大学解体の中の調布祭である。大学解体の闘いは、社会闘争、政治闘争としてのみ闘われる闘争ではなく、必然的に文化革命的な性格を有していなければならないのである。

(二) 全共闘運動における大学批判

まず最初に全共闘運動における大学批判を再検討してみたい。即ち、何故大学解体なのか？何を解体するのか？攻撃目標を明らかに

したいのである。

これは優れて今日の課題である。なぜなら第一に、我々是我々の大学批判の実践的契機を明確に提起し得なかったと、思われるからである。この事が「大学の帝国主義的再編粉碎」を、街頭闘争へと短絡する傾向を形作ったのではないか？もちろん街頭闘争は必然的に闘わなければならないのだが、学園闘争との接点を十分に明確化し得ないままに、街頭闘争が闘われたと思われるのである。

第二に、第一の問題と関連してくるのだが我々是我々の批判して来た<大学>に対し、それに対置する自らの「大学」を構築する必要があるという事である。即ち、一つの形態・体制を変革する闘いは、その闘い自体が、既成の価値体系を乗り越える独自の質を形成する、そういう闘いでなければならない。

以上の理由で、我々は全共闘運動における大学批判を把え直してみたい。

我々の大学批判は要約すると以下の様であった。

資本制社会に於ける大学は、資本制生産様式に基づく社会的分業の一環としてあり、労働力商品の再生産工場として機能する。

市民社会では人々は職業人として現われる

エレクトロニクスで活躍する

アンカツ

安立電気株式会社

本社 東京都港区南麻布4丁目12番20号 電話 東京(03)446-1111 (大代)
支店 大阪市淀川区中津本通1丁目2番地(ホークビル3階)電話 大阪(06)372-0521 (代)
営業所・出張所 札幌・仙台・名古屋・神戸・戸畑・福岡・長崎

主要営業品目
無線通信機器
有線通信機器
計測器
自動販売機
その他

が、この時、分業—東大を頂点とした知的生産工場と、電通大にみられる中級技術者生産工場等の分業—がもたらす私の商品としての労働力商品（学生）の差異（能力・技術）は差別性へ転化し、階層として表われる。そして<大学>はこれらの労働力商品とその能力に応じてブルジョアジーに振り分けるのである。

ところで、労働力再生産工場としての<大学>は、その新陳代謝により、ブルジョア秩序体系を構築し、正当化する。否、むしろそうした存在として<大学>を機能させようとするブルジョアジーの意図が貫徹しているのである。そして、其処で行なわれている<学問>が真理であり、普遍的なものであるという幻想を振り撒くのである。その<学問>は近代資本性国家に於いては、肉体労働と精神労働の分離を前提とする。精神労働が現実的活動と切り離された形で独自の発展を遂げるのである。学問は本来的には、「現実」と批判的に結びついていなければならないだろう。しかし、大学が、資本性国家に於ける社会分業体制の一環としてある時、その結合は私的所有形態に規定され、プラグマティックにブルジョアジーと結合し、「産学共同」「軍学

共同」路線として表われるのである。

次に<大学>で行なわれる<教育>とは何だったのか？それは前述した<大学><学問>の「管理機構」に包含される。この「管理機構」としての<教育>は、闘争圧殺過程で見事に暴露された。例えば、機動隊導入・退学処分等々は決して教育の秩序維持ではなく、前述の<大学><学問>の担い手である教授会—教官の闘争圧殺である。否、教官—教授会を媒介項とした政府ブルジョアジーの闘争圧殺である。まさに<大学の自治><研究の自由>等々と隠蔽されて来た<大学秩序>は、その秩序の中に、全社会を貫徹している権力意志が同等に貫徹しているのである。この「管理機構」に自分の地位を保障された教官は、従ってどんな手段を用いても闘争を圧殺しなければならないのである。

(三) これからの闘いの方向性

以上の論述を踏まえてこれからの闘いの方向性を考えてみたい。これからの……と言っても決して夢想的なものではなく、我々の闘争が持っていた矛盾、弱点を克服する方向性を持って闘いということである。我々の闘争が持っていた矛盾、弱点を繰り返して述べるならば、以下の様である。

日本電信電話公社指定工場

電話交換機用各種ランプ
通信機用各種信号ランプ
通信機用各種抵抗ランプ

特殊ネオンランプ
瓦斯封入管

日本通信光管株式会社

●本社工場 東京都渋谷区代々木5-43 ●長野工場 長野県諏訪市清水町3756 ●福井工場 福井県吉田郡永平町鳴鹿
TEL (466) 0201 (代) TEL (スワ) 2136(代) TEL (志比局) 186

第一に、我々の大学批判の実践的契機を明確に提起し得なかったということである。この課題は二つの間を含んでいると思われる。一つは何を媒介にして闘うのか、媒介項の明確化であり、もう一つは大学批判の具体的、実践的運動の提出である。

第二に、個別学園斗争と街頭政治斗争の接点の問題である。

媒介項の明確化に対する我々の解答は、＜大学秩序＞を保った管理機構への攻撃、その中核たる教授会の諸権限奪取である。これは、大学が社会的分業の一環として位地付けられ、権力が教授会を媒介として貫徹していることを踏まえるならば必然的であり、継続されなければならない。更に第二の問に関連して言うなら、街頭政治斗争が個別学園斗争に優先するといった偏向は是正されなければならない。大学の管理機構への攻撃を軸にして同時に追求されなければならない。

次に＜大学＞批判の実践的運動の提出である。これは同時に第一の問に対する解答の実践的展開でなければならない。我々はそれを地区ソビエトの創出に求める。これは、大学の、精神労働と肉体労働の分離から来る知的独占を前提にした閉鎖的＜共同体＞—破産を

宣せられた！—これに対する我々の新たな共同体の提起である。そして、その拠点を帝国主義市民社会内部の最弱小ポイントたる大学に築き、その拠点に於いて、大学管理機構に公然と敵対するのである。そして、地区ソビエトは、参加者の主体性が全面的に外化される方向、政治斗争、社会斗争、文化革命斗争の三つの斗争を同時に獲得する方向が追求されなければならない。その結合様式は、六十七年十月八日羽田斗争を起点とした、全共斗運動の質を受け継ぐ結合、即ち、議会主義の拒否であり、表現としての暴力を媒介にした結合である。市民社会内部に於ける分解を押し進め、市民社会秩序にノンを発する大衆との暴力を媒介にした結合—新たな共同体の獲得である。

通信・計測機器

とコンデンサの

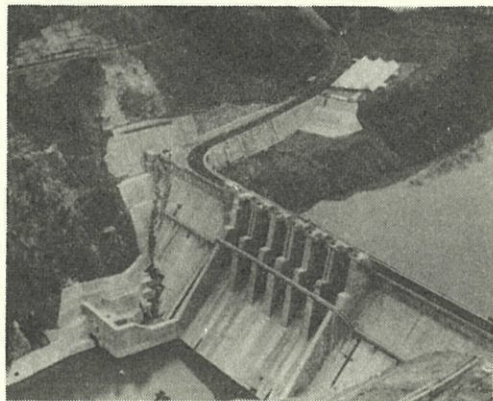
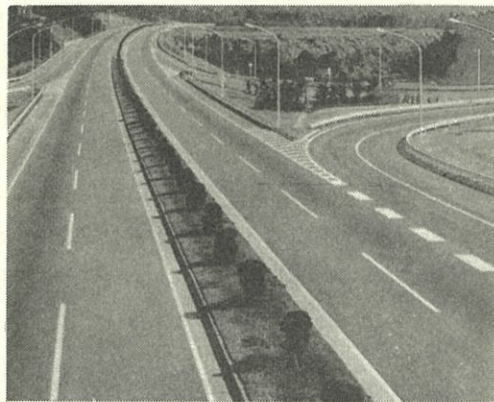
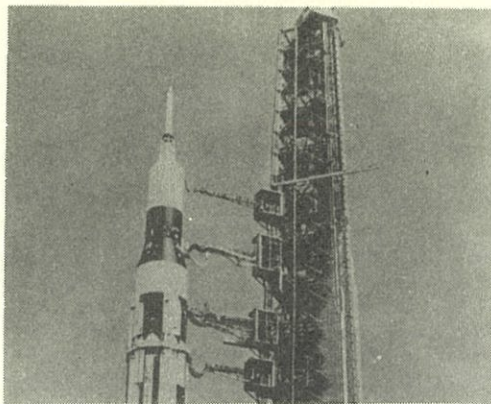
日 通 工



日本通信工業株式会社

川崎市北見方260番地
電話(044)82-5131(大代表)

奉仕しています
必要とし、共和は信頼性の高い製品で
あらゆる産業・工業界は共和の製品を



私たち人間はいろいろな構造物にとりかこまれて生活しています。その中で構造物の破壊という現象にしばしばぶつかります。これは構造物に許容応力以上の応力が掛ったこととなります。安全性を向上するには、構造物の応力を知りひずみを測定しなければなりません。産業・工業界では共和の製品を使ってひずみを測定し、安全性の確認を行い、同時に材料の節約、製品の向上にも役立っています。

共和はひずみを測定するひずみゲージをわが国で初めて国産化に成功し、以来応力測定機器の総合メーカーとして、ひずみ測定という新しい計測分野のパイオニアとして発展してきました。製品もひずみゲージ、ひずみ測定器、電磁

オシログラフ、ひずみゲージ式変換器、カーボン型計器とその種類をほこっています。

応力測定機器の総合メーカー



株式
会社

共和電業

本社・工場 東京都調布市下布田町1219

電話 東京調布0424 83 5101(代)

営業所/ 東京・大阪・名古屋・広島・福岡 出張所/ 札幌

短大実行委員会アピール

我々短大調布祭実行委は、今回の第20回調布祭が決して単なる大学祭として終らすことのできないものということをごここに訴える。現在、我々の生活はその平常性をまっとうすることのできない非常時の中にあつて、今まで築いてきた我々の革命闘争を頂点に置く大学闘争、それに準ずる学内学外でのあらゆる活動を、成果を、消耗させるわけにはいかない。特に日本帝国主義のアジア侵略の公然化の中で、支配者は城内平和的侵略体制構築を押し進め、それに対して闘う我々にあらゆる手を駆使して攻撃を加えてきている。その支配者の決意は、入管体制の強化の中になみなみならぬものを見出せる。我々の過去の革命運動は、この重大なメルクマールとなる入管闘争へいかにかかわるかによって、生きるか死ぬかが決定するのであり、入管体制粉碎闘争への総決起をアピールしたい。

さて、我々が入管闘争を闘うにあつて、あの6月安保決戦の闘いの点検はきわめて重大であると言えよう。新左翼＝革命的左翼の6月安保決戦の大高揚の内に、我々短大は11

日間の安保粉碎政治ストライキで闘いぬき、電通短大始まって以来の圧倒的な隊列が街頭へ爆出していったのである。連日の調布市内デモ、討論集会で、さらに都心制圧デモの一翼を担い、総決起を確認し、闘いの過程で日共＝民青のスタ運動の破産に促進剤を与え、学生大会では民青系諸君の独占する執行部から対案書を出させた。かくして我々は、通常登校する学生の30%が闘いに立ち上るという文字通り全人民的総決起を展開し、70年代への我々の世界への地平を我々の手で切開いたのである。

しかしながら、今、我々には「安保は終わった」という意識が支配的である。だが、日本帝国主義がいまだに存続し、その延命のためにアジア侵略を行なうという事態の中で、安保は終わったとは断じて言いえない。次は入管闘争だという言い方は断じてできない。それは国内の革命情況が一步一步着々と近づいているということであり、日本人民が再び銃をアジア人民へ向けて戦争をおこす気配が具体的日程にのぼりはじめてきたことであり、そ

伝統と技術が保証する!!

アンパツ の
船舶用無線装置
電子航法機器



安立電波工業株式会社

150 東京都渋谷区恵比寿南1丁目1番1号ヤマビル内
電話東京 (03) 719-3811 (代)
テレックス 246-6165

れに対する我々の闘いも決定的な飛躍をせまられているということである。したがって、支配階級が我々に対して非妥協的になり、暴力装置を強化する中で、我々はまさしく「武装」を客体的にそして主体的にせまられたのであるといえよう。

次に入管闘争の過程の中であの7・7集会の重大な意味について深刻に考えるべきである。入管闘争は、今年暮の通常国会への入管法の再上程を一つの頂点に重要な期を迎え、華青闘からの告発という形でそれが暴露された。華青闘は、自分たちは結局被抑圧民族であり、日本人民は抑圧人民であると我々に訴えてきた。そしてあくまでも彼らの立場は、我々の立場からは理解できないのであり、その点をぬきにした我々との連帯は考えられないと我々に告発したのである。しかもなお、我々はいまだに告発を理解できない。いや受け入れた上での闘争も展開しえていない。

結局、我々は侵略をする側のワク内の人間であり、現実を意識しようとしまいとにかかわらず空気を吸うように日本帝国主義を維持させているひとりひとりの人間である。社会党解放派の諸君のように我々はその現実を抹殺することはできないのであり、その点を踏

まえた上で民族主義的立場に落ち込まないで真の彼らとの連帯があるのである。だが、我々は彼らが我々との安易な連帯は突っぱねるということを知っている。しかし我々の目ざす日本帝国主義打倒は、彼らとの連帯を必要とし、それは華青闘もよく認識している所である。すなわち、言えることは「日帝打倒」が実現してはじめて、あの告発を受け入れることができたといえよう。しかし、告発が我々の内部からではなく、被抑圧人民の内から出されたということは、残念である。

さて、以上の点を踏まえた上で開き直って我々の前提の世界史的意義について述べたいと考える。

それは、現在が帝国主義の時代ということであり、したがって、世界革命の時代であるということである。ロシア十月革命は、その突破口を切開いたのであり、日本でも1918年に革命的大内乱「米騒動」がまきおこっている。しかし10月革命は、スターリンの出現によってスターリン主義に掃き清められ、一国社会主義論をふりかざして世界革命の嵐と闘争している。スターリン主義によって世界革命は遅延させられ、日本においては、スターリン主義の一国社会主義論に基づく、「社会

祝 調 布 祭

化学分析の専門メーカー

- 公害測定用計器
- 工業用・卓上分析計
- 直流積算計

電 気 化 学 計 器 株 式 会 社

本 社 東京都武蔵野市吉祥寺北町4-13-14 TEL 0422-53-1411 (大代表)
営業所 大 阪 ・ 四 日 市

主義を達成させる条件のない日はまず民主主義革命により条件を形成しそれから社会主義革命に移行する」という「二段階革命論」が我々の闘争に敵対している。ところがスターリン主義は、やはり帝国主義の存在を前提としていて、それと闘うのであるが、我々の前提とはまったく違い、帝国主義との馴れ合い的共存まで進化し、基本的に闘いを放棄してその立場を帝国主義者の左手として自ら位置づけ、武装して我々に襲いかかってきている。

ところでエセマル学同の革マル派諸君は、そのスターリニストと共にきわめて犯罪的な立場を表明している。革マル派の理論はすばらしいという意識は昔から多いのであるが、その「すばらしい」革マル派が日本革命の重大な位地を占める入管闘争については理論の展開を一言も言えず、昨年11月の段階で完全に「武装反革命」として登場し、今、着々とそれに純化しているのである。いずれにしても自らの理論の破産を、武力=暴力で乗り切ろうとしている彼らの方針は、正しくスターリン主義的であり、我々は、代々木スターリン主義者党と共にこの武装反革命を粉砕するということが、我々の任務となることを確認しておかねばならない。

さて、我々の前提であるが、スターリン主義によってきわめて奇形的となった世界体制は、第二次帝国主義戦争を経て、圧倒的となったアメリカ帝国主義の主導する帝国主義世界体制となり、ソ連を中心とするスターリン主義陣営がそれを補完する形となっている。しかし、この戦後世界体制は、アメリカ帝国主義の優位性に準じており、後進国・半植民地での民族解放闘争がその矛盾を爆発させ、それはアメリカ帝国主義に集中している。かくして我々の前提は、戦後帝国主義世界体制=ヤルタ・ジュネーブ体制が、本質的にその根底から動揺し、崩れようとしているということである。

ところで、日本帝国主義は、その戦後体制のワク内でアジア侵略の泥沼に飛び込もうとしている。我々は、これを阻止し帝国主義だけ泥沼に飛び込ませてやらなければならないが、日帝のアジア侵略で思い返すことは、戦前の日帝のアジア侵略である。日本人民プロレタリアートは排外主義の中で帝国主義に組織され、想像を絶する侵略を行なっており、朝鮮人を「在日朝鮮人」にさせ、気がいのような殺人を行なったのである。それは排外主義が実際に物質的基盤を持ち、そしてそれ



磁気記録の可能性を追求する

主要製造品目

高級ステレオテープレコーダ
業務用テープレコーダ
特殊テープレコーダ
ビデオテープレコーダ
その他高級音響機器
データ処理装置

電算機用磁気テープメモリ
計測用データレコーダ
テープ、ヘッド試験装置
各種多素子ヘッド
特殊モーター

TEAC®

ティアック株式会社

本社 東京都武蔵野市中町3-7-3
電話 (0422) 53-1111(大代表)

に助けられ、我々と同じような今の大人を襲ったということであり、日本共産党の助けもあって日本人民が内乱を組織できなかったということなのである。

現在、朝鮮の歴史、あるいは日帝のアジア侵略の歴史は「何者かに」よって陰蔽されている。我々の受けてきた義務教育、高校教育では教えてくれないのである。そしてあの関東大震災の一番重要な意味もしかりである。だが我々は、それを我々の無知・無自覚の免罪符とすることはできない。我々はそんなことを言っているヒマはないのである。アジア人、特に朝鮮人には「反日感情」が体質化しているものであり、すでに日本人総体を憎んでいるのである。

そして日本帝国主義は、昨年の日米共同声明にみられる通り、アジア侵略を公言するまでに至っている。入管攻撃は、具体的に今秋通常国会に上程される入管法をメルクマールとして、そして日「韓」法的地位協定に基づく、「韓」国人には永住権を与えるという、裏がえして在日朝鮮人に韓国籍を強要するという具体的日程をもってかけられてきておりそれに対する我々の闘いも、入管闘争に勝利するか否かが、我々がベルサイユ派かコンミ

ューン派かに決定されるといえよう。問題は日本帝国主義のアジア侵略であり、それに対する我々の立場である。

それにしても我々はあくまでも抑圧民族のワクの中にいるということは忘れてはならない。これは、部落解放闘争で部落解放同盟が自らをやはり部落民と位置づけるように、無視できない事実である。そのような位置づけのできない日本社会党・日本共産党が未だにのさばるのならばあくまでも粉砕の対象であり、社会民主主義があくまでも排外主義を再生産するならば、破産させてやらねばならない。

入管闘争へのとり組み方が、日帝のアジア侵略を阻止するかしないのかを決定し、日本を、アジアを世界革命の根拠地へと築き上げるのが決定する。すなわち、我々としてはそのための戦略が「日帝打倒」であり、これぬきにした闘うアジア人民との連帯はない。アジア人民に憎まれている日帝を内部から崩壊させるのは我々の任務であり、7・7集会の我々に対する告発を受け入れることのできる時は、日帝打倒に勝利した時点のことである。

Miyazaki

ビル共聴，ビル陰共聴，ホーム共聴に

ミヤザキ

CATV 機材



宮崎電線工業株式會社

本社・工場
会津若松工場
営業所

東京都大田区大森南1-17-16 TEL (744) 2511代
会津若松市門田町大字面川字館堀 TEL (2) 5895代
仙台・会津若松・高崎・東京・名古屋・大阪・福岡

Garden Party
(花火大会)

と き 11月8日(日) P.M. 3:30 ~
 ところ 学館前芝生
 整理券 100円(大瓶ビール1本につき)(おつまみつき)

“盃をもて、さあ卓をたたけ…”
 学友諸君、そんな豪快な気分で大
 いに飲もうじゃないか。
 秋晴の空の下、花火を鳴らし大い
 に飲め!!

調カサ
 飲キ

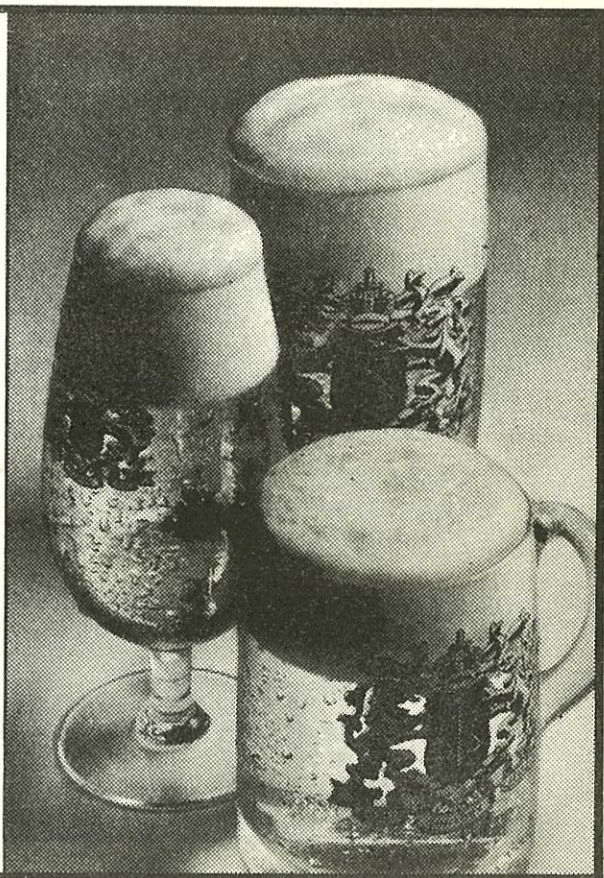


<純生>は、爽やかな感動を巻き
 起こして、ビールの'70年代=フ
 レッシュ時代をさっそうとリード
 する<フレッシュタイプ
 新鮮派>のパイオニア。樽
 の生そのままの澄みきった風味が、
 いつ、どこでもフレッシュです。
 心に響くウマさです。

フレッシュをマークせよ

サントリー
 <<純生®>>

心に響くフレッシュなウマさ!





情報化時代の
シンク・タンク

TR 研

本社・研究所 埼玉県行田市

TEL (0485) 56-7131

営業販売部 東京都練馬区

TEL (03) 930-4111



電気通信機器製造

電報自動交換装置

電子符号変換装置

印刷電信操作装置

継電器各種類

千代田電機株式会社

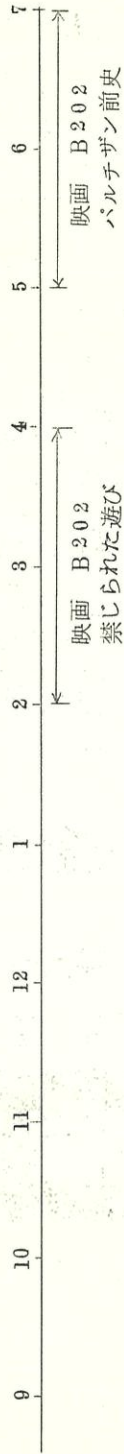
東京都大田区田園調布1-1

代表取締役社長 星 沢 基

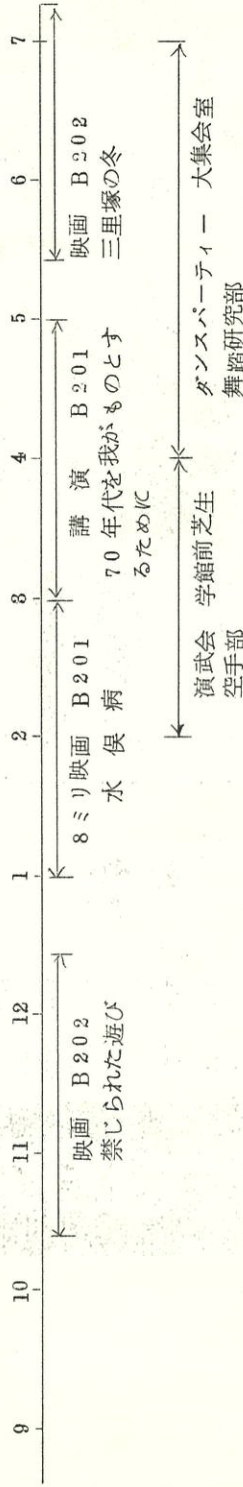
電話 (721) 6136(代) - 9 6130・7136(代) - 9

催物日程表

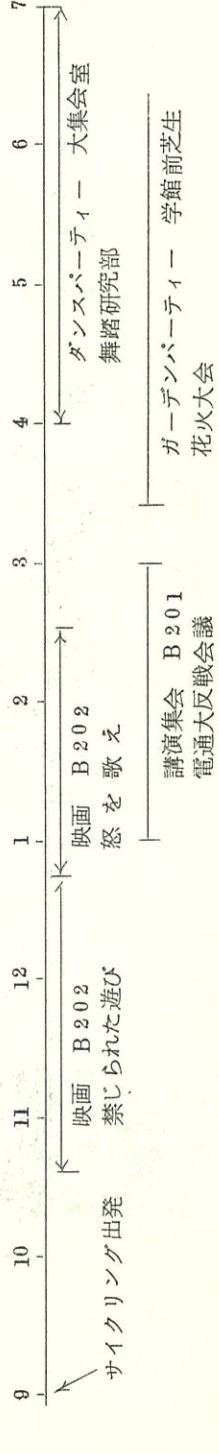
11月6日(金)



11月7日(土)



11月8日(日)



講演

於 B 2 0 1

時 11 / 7 2 P M

主催 調布祭実行委員会
学友会執行委員会

70年代を我がものとする 為に原点を創出せよ!

三上 浩(共産主義者同盟)

我々は、現在、一つの大きな転換局面にさしかかっている。しかしそれは、60年安保の時と同じではないし、また、そうあってはならないのだ。我々は、6月闘争の過程で、いわゆる、共産同内の党内一党派闘争、即ち、叛旗一戦旗の党派闘争に、叛旗として自己表現する中で、大衆部隊をまき込んだ形で関わって来たわけであるが、革共同両派の党派闘争に象徴される党派闘争の在り方自体を変えなければならない、それは、〇〇君の死を云々という形で言うことは出来ない、まさに、その様な形で現われる根底そのものを対象化し止揚しなければならないのである。この様な現在の状況にあって、一貫して、60年代の政治の枠と新・旧左翼の存在の総体の止揚の方向性を主張し、60年代を超える階級闘争をめざし実践し続けている共産主義者同盟(叛)より、三上 浩氏を招いて、70年代を領導するものは何なのかを講演してもらおう予定です。

では、三上氏の共産同の全国政治新聞「叛旗」0号に掲載予定であった論文から抜粋して以下に紹介します。

「『数年間、敗退の歴史のなかで闘いのような闘いを展開してきた政治集団及び人民が、凝縮された数時間のうちに、過去の全経験を

越えた闘いを実現する時がある。ひとつの革命がそれに先行した革命の諸概念を変革するという過程は、この時前期的に経験される。政治集団及び人民の運動はこのような過程を媒介にして自己の転換をはかっていく。歴史はこの様な運動の螺旋的の反復である。』(三上 浩論文集『羽田闘争の総括』)

67年羽田闘争の後、三上 浩はこのように記したことがある。戦後の閉塞的情况一円環的秩序への最初の本格的闘いを組織したのは、第一次共産主義者同盟であった。けれども第一次共産主義者同盟は敗北・解体した。第一次共産主義者同盟の敗北一解体は、戦后日本社会の閉塞的情况一円環的秩序の形成した矛盾と抑圧の直感的・感性的な解放の展開をなしとげながら、旧来の『革命的理論一思想』を変革するに於て敗退したことであった。革命的な運動と闘いの発展はその現実的運動が旧来の『革命的理論一実践』を古くすることによって可能となる。第一次共産主義者同盟はその実践的展開のうちに、すでに、戦後の閉塞的情况と円環的秩序と補完的關係へ到っていた旧来の『革命的理論一実践』と対立し、それを古くした。確かに旧共産主義者同盟も旧来の『革命的理論一実践』と対立する革命的理論一思想を提出した。コミンテルン期に教義体系として自己完結的な完成度を示し、円環的秩序の一環となった『革命理論一思想』へ、マルクスレーニントロッキーの革命的な精神と原理をもって反逆したのである。だが、これらは『革命的復古主義』と呼ばれるものであった。

第一次共産主義者同盟の矛盾は、閉塞的情况一円環的秩序に対する……………」



映画

於 B202

企画 調布祭実行委員会
「三里塚の冬」上映実行委員会

11/6 パルチザン前史(5:00pm)

7 三里塚の冬(5:00pm)

8 怒りを歌え(12:30pm)

70年6月そして10月が平穏なカンパニアに終始したごとく、69年秋に日本階級闘争が到達した質と水準を如何なる新左翼諸党派も切開し得ず今日に至っている。

67年10・8羽田闘争がベトナム革命戦争をめぐる戦後世界構造の動揺のうちに支配秩序の枠を越えた暴力の復権を日本階級闘争に告げて以降、階級の共同性として行為をとりこみ得る暴力が60年代の政治過程論と市民的統一戦線の壁を打ち破りつつ60年代後半の高揚をもたらしていった。

しかし、69年1.18、19の安田攻防戦そして4.28沖縄斗争と権力のより高次の組織された暴力性の前に後退を余儀なくされてい

った。その中で要求されて来たものが我々の側からする組織された暴力のより高次の形態としての軍事・武装へのとりくみであり、それに象徴されるものが共産同から飛び出た赤軍派であり、現在もまた、この後退局面を切開できないが故に70年代をめぐる論争の環はどのように軍事を組織し、権力の壁を突破し得る武装をどのような形で形成して行くかである。

そして我々が未だに'69年を越えられぬなら、かって到達した地点の総括から始めなければならない。その一つとして69年秋の戦いの中で表現された暴力の一形態として全共斗パルチザン軍団があった。そしてこの映画パルチザン前史の中から70年代を透視し得る暴力の様相を我々は求めたいと考えている。

暴力が共同性をもち得る行為として唯一階級の発現として政治過程の中に登場してくるなら、暴力さらには武装の質的量的飛躍も、階級の現在の成熟もまたこの中にあると考えられる。武装の飛躍がただ意識の集中度から求めること、武器のエスカレートに求めることを党の側から語ること自体が現実の階級斗争の推移とは別個に自己の意識の中でだけ

で政治思想を語ることになるのだ。しかし、ロシア革命前史を見るごとく赤色テロルや神秘主義革命的ロマン主義が階級斗争に現われることは、革命の同伴者として階級が一つの表現様式をもち階級の成熟のある段階である。

今、我々は軍事を政治の凝縮として武装を武器のエスカレートとしてではなく、社会が

生みだして行く矛盾の中で形成される階級の成熟とその発想としてとらえられるべきものとして考える。我々に現在求められているものは60年代のさらなる総括である。そしてその一つの手がかりとして「怒りを歌え」を上映したいと考えている。



講演集會

主催：電通大全学反戦会議

電通短大入管闘争委員会

調布祭短大実行委員会

場所：B201

日時：11月8日午後

昨年10・11月決戦において切り拓かれた内乱的死闘の70年代は、ベトナム＝インドシナ侵略戦争を突破口として戦後世界体制の根底的な動揺と82年代からの日帝の高成長政策の矛盾の肥大化から日帝の危機の一層の深化として帝国主義総体、日帝の危機乗り切りとして絶望的なアジアへの道に乗りださなければならぬ帝国主義者と、革命か反革命かの岐路に立たされたプロレタリアート人民の決起による全面的な総対決の時代である。

国家権力は、城内平和確立＝侵略支配体制構築の攻撃として、破防法、機動隊の増強、自衛隊の内乱鎮圧軍として四次防（5兆8000億円）の飛躍的拡大と公的権力の全面的発動＝行政権力のポナバルチズムの肥大化、そして入管法をテコとしての排外主義攻撃といったあらゆる強暴な弾圧をかけてきている。そして、我々の忘れることの出来ない「反革命」の密集した攻撃である。国家権力はもとより日共＝民青、革マル派の武装反革命としての深化は、我々がさけて通ることのできないものであり、「反革命の密集」は実は「革命の前進」によって生じたものであり、この「反革命」にうちかかってのみ革命の前進が可能となる。

帝国主義者の72年の侵略体制構築の政治過程は侵略諸要素の全面的開花であり、入管法

攻撃は、侵略へ向けての排外主義であり、文字通り入管法を粉碎することは革命の前提の粉碎、すなわち革命への準備過程の突入である。しかしながら、入管闘争に決起するまえに、我々日本人民プロレタリアートは、帝国主義本国におけるプロレタリアートとしての抑圧民族の自己の立場をはっきりと認識しなければならない。そうした自己の立場を主体的にとらえるならば必然的に我々の任務も鮮明である。

民族解放闘争と先進国プロレタリアート人民の闘いの直接的媒介となる在日被抑圧民族への弾圧、日本プロレタリアートに対する排外主義攻撃として一挙的に侵略体制構築へ向けての攻撃をかけアジア侵略に乗りださんとしているのである。

排外主義の腐敗・墮落から反省的主体的脱却を通す中で、革命的祖国敗北主義、真のプロレタリア国際主義で武装されたプロレタリアートの決起により、日本階級闘争の大変革的發展を克ち取ることができる。まさに帝国主義者の矛盾の集約点は民族、植民地であり、帝国主義打倒を目指すプロレタリアートは民族、植民地問題を抜きにしては革命などは語りえない。現在のベトナム戦争でベトナム人民の闘いにもかかわらず、いまだ終結していない究極的な原因は何なのか、帝国主義本国におけるプロレタリアートが決起していないからであり、未だ排外主義の渦の中に巻き込まれているのである。戦後世界体制を根底から揺り動かす突破口となった、英雄的なベトナム人民の闘いを賞賛するのではなく、自らが祖国敗北主義に徹し、闘うアジア人民との真の連帯、すなわち日帝がアジアへの絶望的な侵略の道へ出ていく時、侵略を内乱へ転化する闘いに決起しなければならない。我々は、

高々と内乱派の雄叫びをあげ、秋期入管諸闘争を通じて、革共運動の路線の血肉化と組織拡大を通し、70年代内乱を闘い抜けるべく、革命的左翼の単一プロ党への止揚と、全人民的（あらゆる階層、地域住民への侵透）決起を確立しなければならない。

今秋、入管法国会再上程阻止！ 入管法・入管体制粉碎の闘いに、全ての電通大、全都

・全国の労働者・学生の諸君は総決起しなければならない。

闘うアジア人民と連帯し、日帝のアジア侵略を内乱へ転化せよ！

在日被抑圧民族を無条件防衛せよ！

「韓国」籍から朝鮮籍への国籍変更を法務省は認めよ！

沖縄奪還、安保粉碎、日帝打倒！

映画 「禁じられた遊び」 於 B202

11/6 (2:00pmより)

7・8 (10:00amより)

主催・旧4E闘争委員会

我々は、何か行動をおこそうとする時、その行為が、自分の生き方にどういう意味をもつか、又その行為の結果に対する恐れをすくぐに考える。そして、その思考の円環の中で大部分は、その行為はなされないで終わってしまう。一体行為とは論理を要求するものなのだろうか。我々は、すでに「権力とは論理の

凝縮したものであることを知っている。我々は、そのような論理、権力の論理を拒否しようとする時、その行為が論理化できないのを知り暗然とするだろう。しかし事実として、人間は存在しているし、それゆえ自由への飛躍を渴望する心は存在している。もしかしたら、それは本質的に論理化不能なものなのかも知れない。だからそれは次代への連続性を有しないのかもしれない。しかし、個人は最終的に類としての階級にのみこまれてしまうという論理は依然としてうそであろう。人間の自由への飛躍を試みる行為は永遠に絶えることはないだろう。

クラス・サークル企画

放送研究会

放送研究会における調布祭の位置づけについては、別項に多小触れているが、放送メディアの瞬時性、かつ連続性は、文化運動団体中においても放送研究会に、きわ立った特殊性をもたらしている。このことは、放送研究会の大きなメリットでもあるが、同時にその活動に大きな不安定要素の介在を強いている。そのような状況の中で、放送研究会は調布祭に次のような点で、評価を与える。

1. 結節点での徹底した総括。
2. ミニコミのしばしば落ち入りやすい、独善、なれあい、閉鎖性の突破。
3. 以上の2点に示されるように、大衆を包括した形での総括。

ここで注意してほしいのは、調布祭という行事の中で行なわれる“サテライトスタジオ”という形式は、本来の「本来」という概念では、捕えられないものであるということである。この特異な（あるいは奇形的な）活動の中に、我々はいかなる文化創造を行なうことができるであろうか。

考古学研究会

最近宅地工場用地の造成や道路の建設農地の改善など土地の開発が全国的に急速に進んでおり、これに関連して、埋蔵文化財を包蔵する土地が急激に失われている。発掘には、学術研究を目的とするもの、また土木工事に伴う事前の発掘調査があるが最近、土木工事に伴う事前の発掘調査の比率が高くなっている。多摩ニュータウン遺跡の発掘も、それに属するものである。東京の人口増加に伴って、それに対応できなくなった住宅事情などから東京都では多摩町一帯に人口30万をかかえる。多摩ニュータウンを建設中であるが（京王線の複々線化にもその影響はみられる）この建設によって再び日の目を見ることのない遺跡の調査を通じて我々の祖先の生活を再認識したいと思う。かってそこには、人間の営みがあったはずである。今日、幾世紀も幾十世紀もの静かな眠りをへて、我々の手によって現代の光を与えられようとしている我々の内なる故郷を探りまた知ってもらうべく調布祭に参加するものです。

2 S - A B C 研

我々自身の問いかけを我々自身が答えようと暗中模索する中から生まれて来た“何物か”を展示したい。何も生まれて来なくても一多分その可能性が大きいが一みじめったらしい姿をさらしたい。我々がみじめたらしくともその時、他の人々はもっとみじめたらしく見えるものだから。もし頭をしゃんとしている野郎が現われたら指をくわえてうらやましがるか鼻先でフンと軽蔑するかわからない。

E S S

展示 1 “ 留学問題 ”

ここ数年、外国への旅行者が一段と増えると共に、各留学制度を主催する機関から海外へ送られる人の数もうなぎのぼりに上昇してきている。しかしながら、興味のない人間にとっては、その留学制度の実体について何ら認識してない状態である。そこで我々 E S S はそのような留学制度を研究したものであるが、部外者の方達にもこの研究活動の結果を知ってもらい現在の留学制度がいかにあるか、どのような資格、人数、機関、その他をまとめて発表するものである。あわせて我々 E S S はそれらの留学制度に対しての我々の考えを報告すると共に、今後このような留学制度はいかにあるべきことが好ましいかを検討し発表するものである。

展示 2 “ 都内英会話学校を斬る ”

現在、我々は E S S の一活動として最近、都市を中心にして急増する英会話学校の実体をさぐっているものであるが、本当に英会話の習得ということに関して、本当に好ましいものか、我々は常にそのような学校に対して不満をいだいている。つまり、英会話学校が急増しているのは、世界のコミュニケーションのスムーズな伝達のためにあるのであれば、わかるけれども実際はそれより、むしろ英会話学校所有者の営利のために、そのような本来あるべき姿が疎外されている。我々はそのような営利一本の方針に対して怒りをおぼえるもので、本来、英会話の本質が何であるかを追求し、今後英会話の普及にあたっていかにあるべきか追求するものである。

以上是我々 E S S の現在の活動の一部を報告するもので部外者の方にも広く認めてもらいたいものである。ここでは、それと同時に我々 E S S と部外者の方達との親睦、意見交換のための休憩室を設けて、コーヒ、紅茶を原価以下にて直接販売し、皆の休憩室として気楽に人生あるいは将来を、あるいはその他のことを話してもらいたいと思います。

ユースホステル同好会

今から60年程前、一ドイツ人教師の手によってユースホステル運動なるものが創始された。それは寺、学校、山小屋……等安く、安全な宿舎を意欲的に提出することにより、主に青少年の野外活動の充実をはかるものであった。しかるに、日本の現行ユースホステルの特色としてはむしろレジャーブームに便乗した、観光施設と言った感じが強く、とかく質よりも量が重視されがちである。我々は、部員相互の情報交換の場としてサークルを結成してから8周年目を迎えるが、今学園祭を一つの契機として、かかる状況をふまえ、様々な要因を分析した後、YH運動ならびに大学YHを考察することにより、今後のサークル活動への一助とする意向である。

工学研究部

私達、工学研究部では次のようなことを行い予定です。

デジタル技術講座（仮題）

初心者・中級者・上級者コース

バイオニクスモデル

ステレオコンサート

なお当日、生協横のあの巨大なコンクリートフォーンも動かす予定です。

管弦楽団

カルテット（4組）。管楽合奏・レコード鑑賞

軽音楽研究会

不断の研究の成果を発表する場としてのMUSIC INNを開きます。

サイクリング同好会

展示・映写

サイクリングの計画・準備・心得えを簡単に知ってもらうため映写を行ない、自転車を輪行袋に入れて楽しむ方法の紹介、オーダーメイドの自転車の良さを知ってもらうためまた、クラブ活動の写真展示、そして自転車を使用したゲームで皆さんに楽しんでもらいます。尚賞品がありますよ。

市民サイクリングの開催

日時：11月8日(日)午前9時集合 集合場所：電通大学館前芝生

コース：電通大— 深大寺周辺— 井之頭公園周辺— 東女・善福寺公園— 平林寺周辺を一周— 電通大 対象者：満16才以上の人、特に女性大歓迎

昼食持参：平林寺で昼食をとる。

この計画は自分の力で自由に自然のうちを走り回るといふサイクリングのすばらしさをやらないでわからない人や、一度は走ってみたいという人にサイクリングのすばらしさを思存分楽しんでもらいたいと思って計画したものです。参加料は無料、ただし自転車のない人は、一台200円程度で借し出します。

舞 研

ダンスの集い

・レコードによる簡単なダンス・パーティー ・部員によるデモンストレーション

11月7日(土)8日(日)4:00~7:00

空 手 道 部

空手道の演武

基本・組手・形・試割

4 T
創 造

写真研究部

1. 写真展示
2. モデル撮影会

美術部

作品展示

短大科学技術研究会

科学技術研究会が現在までに研究したものを発表する予定で、発表の方法としてガリ版ズリのものを出す予定です。

短大文学同好会

古本及び詩集配布

今春結成した本同好会は調布祭を記念して、我々としては最初の詩集を発行します。我々はこの詩集に「位相」と言う名称をつけて調布祭会場において無料配布する予定です。

短大現代問題研究会

書籍販売

現在、支配者の排外主義イデオロギー攻撃がますます強化される中で、それに対する、我々のイデオロギー的武装を目的とし、それに関する書籍の氾濫を具体的に行う。書籍の内には現代問題研究会の編集した手製の本を加え、これを中心に販売を行う。この「本」の原稿は、現代問題研究会の77を越える。

短大無線工学研究部

公開実験

アマチュア無線の実際をテントを張り、公衆の面前で行う。

QSL展示

その他

短大電子技術研究会

アマチュアテレビジョン公開実験

短大電子技術研クラブJHIYCFによるアマチュアテレビジョン公開実験、学外中継を予定しております。

模 擬 店 案 内

3 T有志	歌声喫茶	P棟ロビー
フォーク有志	喫茶店	A棟横卓球場
2 E有志	スナック	C 3 0 2
考古研	スナック	A 2 0 1
ヨット	BAR「コックピット」	C 4 0 2
スキー	スナック	C棟2階
軽音楽	Music in	C棟ロビー
管弦楽団	音楽キッサ	大集会室
ユースホテル	カルメ焼店	学館小集会室
短大山岳部	歌声喫茶	短大指示板横

飲 も う ！

食 お う ！

強 姦 し よ う ！

何 ？

サークル論における問題点

実行委員会

我々の提起した「各サークルのサークル論提出」に関する各サークルの対応は、提出したサークルが下記の四サークルに終わった事は、その質的内容をも含めた形で、少なからぬ先望を招いたが、我々がその中から察知した点は、①サークルそのものが、類的な幻想領域の彼方の抽象体としてしか捉え切れていない ②それ故に自己の生活過程からの問題として活動に対する視点を持ち得ず、逆にインテリгентな生活への解消が見られる→生活者としての自己喪失 ③そこから来るところの状況に対するアナクロ的閉鎖性、すなわち我々の内にある生活の幅（物質的生活の幅、新しい欲望における幅、表現へ向けての幅）からの活動へのアプローチが、逆にサークルの持つ類性への、抽象性への固執から歪曲化されて語られている、それは今におけるサークル自体の運動の後進性と、自己の位置の投射された開かれた運動に対する後退的局面としてしか捉えられないであろう。

我々の言うところの「共同体へ」の問題点とは、従来の「白々しきサークル」への批判と新しい自己と、他人の生活空間の関係から来る意志の「私」別性を乗り越えた地平に、「個一サークル」の関係を市民社会における自然発生性を止揚した関係への飛躍であるということを確認しておきたい。

サークル意識（我々自身がサークルを形造っている意識）を持つことにより「サークル」が止揚されてゆくという捉え方の延長上に何

があるかも自明であろう、何故なら我々自身が現在様々に分化されつつ、それが存在様式から存在価値にまで至っている。しかるにこのような分化と同時に生活そのものの幅を内部に矛盾的拡大としてはらみつつ進化している。具体的に我々の行為を捉え返す時、それが固体として今までにない幅を持つ行為としてあり、これまでにあった幻想的共同体を乗り越えた過程にあるという事と同時に、新たな共同体創出への要因としてあるだろうことを認識するからである。

すなわち、幅を持つ運動とは、主体自身の変革を含んだ開かれた運動として見る。

文化的側面から個的な社会内における現象形態を「生活として把える延長に、文化は総体としての社会における現象形態として把えられるだろう。そして市民社会内の文化は、ナショナルな形に集約される文化及び知識人の提出する幻想領域からの類性と普遍性を求める国際的文化のミックスされた性格を現在の文化は有しているであろう、しかし我々の言う「文化」とはナショナルなものでもなければ、幻想領域と生活水準の問題を中心として、ブルジョア的個として市民社会の中でいくらかでも上昇出来るところの知識人の国際的文化でもなく、自然的生活再生へ向けた生活過程の深化、幻想領域の存在様式としての矛盾を含みつつ、意識の過程ではなく生活思想として行為される現象一般を言うのである。

何故なら、ナショナルな文化は当然の事、国際的文化を含めたところの全ての文化を包み込むだけの力量を政治国家そのものは、明らかにもっているのである、故に我々はその国家を越える質を持った文化を創出していかねばならないだろうし、それは我々の内にある共同幻想性を払拭し、その中から生活深化

過程を媒介基軸とした共同体構築によってのみなされるのである。

我々は、調布祭を実質的に語るレベルにおいて、ほとんど全てのサークルに対して“Non”を発する他はない、と同時に我々自身の語ってゆく言葉一つ一つさえ、一つの意味性として独自の発展的系譜を持ちつつ、自身の存在と入り乱れた関係に落ち入り、その行為者であるところの我々にせまってくる、しかしそのイロニーと、消耗の中においても生活を基底とした他と自己との関係基軸→サークル(共同体)への展望と実体を創出してゆかねばならない。

放送研究会

◎基礎理論

サークル論について述べる前に、社会的存在としての人間について、改めて要点を思い起こすことを要請したい。ここでは詳細には述べないが、基本認識として、人間は、その人間が属する特定の社会的諸関係によって規定されていると同時に、そうした被規定性を土台にしながら、同時に社会に能動的に働きかけ、これを作り変えていく、能動的主体であるのだということを銘記してほしい。

前者を忘れれば、サークル内においていかに先鋭的に理論が展開されようと、所詮はマスターベーションに終わってしまうのだろうし、後者を忘れたものは、人間解放の場としてのサークル論、いわゆるミニトピア論に、展開的にみられるのであって、どちらもサークルの開鎖性を生み出すにすぎない。

さて、サークルにおける基本理論については、我々の独創による部分はないといつてよ

い。我々はむしろ、以下に挙げるような基礎理論を、実践の過程で再構築しようと意図しているのが、現在の段階である。

この基礎理論とはサークル構成者自身の内部過程のダイナミックを、内観的な分析方法で把握しようとするものである。それは、サークル運動を、自己変革と社会変革の弁証法的関連過程の総体として考える、いわば、自己変革論をテコとして文化運動論を構築してゆく方法がとられている。

そして、文化運動における自己変革過程を促進するもの、即ち、契機にかかわるものとして三つの契機、主体的契機、相互的契機、触発的契機を挙げ、サークル運動の内容としては、対自的かつ相互的な自己点検であり、それを実体的に可能とするのが文化創造(作品制作)であるとしている。

さて、ここで、少し説明をしておきたい。我々が、文化創造サークルとして社会的に登場しようとするならば、我々は、我々の作品における表現の深さと、その先鋭性による以外に、その手段はないわけである。その意味において、この理論は大きな力を持ち得ると思われる。しかし、これを現実のサークルに適用しようとするならば、いくぶんかは敗北主義に対する本能的な防衛本能が働いて、それと矛盾しない理論の実施面での細密化に苦勞することとなる。その事が往々に、「自己変革→社会変革」の理論を危くする事ともなるのである。現実には、「自己変革→社会変革」を理論の軸とした各運動体が、行き詰まり、崩壊していく中で、客観的現象、もしくは結果の中で、良い「自己変革→社会変革」を得られる良いサークルを作る必要が生まれたわけである。

つまり、我々は自己変革のためののみ制作活

動をするわけでないから、サークル総体としての共同性の内容は他の方法によって保証されねばならぬとして技術的な運営論を導入し勝ちである。しかし、ここで注意しておきたいのは、我々の創造活動の先端性は、我々の活動のプロセスの先端性を伴って、初めて可能なのではないかという点である。言葉を換えていえば、結果の総括は、それ単独では実質の意味を何ら持ち得ないのだという事である。前述のようなジレンマを打開するには、プロセスを捨象した結果論を求めるのではなく、まさに実践の過程をこそ、我々のサークル論によって武装していく必要があるのではないだろうか。

◎実践における同盟

サークル論と実践過程に関して述べるならば、それは文化それ自体を捕えなおすこととなる。すなわち、文化の源泉は労働であり、人間は人間の本質の対象化したものをおして、初めて自分を確認し、人間性とは何か、ということをつかみとって来たということである。

我々がここで実践の問題を注視するのは、理論は本来的には実践の完結によって確立するのであって、現実の実践に個々人を踏み出させるのは、理論に対する楽天的確信しかなく、しかも理論を現実の実践に歩みよらせるわけにはいかないのだということが確認されたからである。

◎放送サークルと学園祭

放送サークル論を述べるには、先ずコミュニケーション理論を述べ、マスコミ論、ミニコミ論を述べねばならないが、ここでは省略する。日々の実践としての放送サークルの特殊性を述べるならば、放送はその瞬間性（現存性）と連続性という相矛盾した特性を持つ

ものであり、それ故、放送員は、日々の活動に自己の全存在をかけ、かつそれが連続した理論に支えられねばならない。しかし、ともすれば日々の活動をやり過したり、日々場当たり言葉をはいたりし勝ちである。実際、毎日の放送に完全な総括を個々に行なうことは、ほとんど不可能であるといっても良いほどである。

一方、学園祭、調布祭の持つ特質は、その行事が一年に一度という孤立した存在である。にもかかわらず、その準備にきわめて長い期間をかけられるということである。

従って、我々DHKとしては、調布祭は、我々の日々の活動の、長期的総括の場として絶好である。もちろんここで言う総括とは、前にも述べたように、単なる総括としての総括ではなく、その時点での自己の存在の吐露は、直ちに、自己の未来への、挑戦として位置づけられねばならない。

一方、そのような形態での放送は厳密な意味での放送ではない。しかし、この事実は我々の調布祭参加の否定的要素でなく、積極的要素として捕えられねばならないだろう。ミニコミ機関のともすれば陥りやすいなれ合い、怠惰、独善、単なる反マスコミなどの気風を一掃するのに、調布祭での、地についた対話、開かれた放送が、役立ってくれるだろう。

A B C 研究会

A B C 研究会 英語の研究会ではない。
Automatic Bomb System 研究会でも
Biological Chemical weapon

研究会でもない。

A Boy come from every where
in Japan=日本の住民が東京の片田舎調
布市の電通大で自分たちの問題を形に出して
みようというのである。

現在の我々の問題一何なのかさえ我々には、
はっきりしない一を見つけ、我々自身で答え
ようとするその姿である。別にとりわけ見て
もらう代物でもないが、一回ぐらい足を運ん
でもらいたい気がする。

世間では「電気のABC」等々、ものの始
めぐらいの感覚でABCを使用している。我
々の集まりもそんなものであるが、我々にと
ってABCは始まりよりも“過去”である。
過去(ABC)を知り、現在(NOW)を考
え、結末(XYZ)を志向する。

そのためのABCである。Nの前にMがあ
るからといって現在の思想がMarx主義であ
るとはいえない。現代の文学がNosakaに
代表されるわけでもない。

過去を知らずして現在は語れない。社会主
義運動のABC、それは19世紀であろう。
そして、プロレタリア革命のABC=ロシア
革命ついでにファシズムとプロレタリアの対
立の頂点、スペイン革命、敗北の歴史には違
いないが、XYZを指示す偉大な経験であろ
う。

これらABCからどんなNowが浮び出、
どんなXYZが志向されるか判らない。我々
は一つにまとまてはいない。セクトのよう
に一定程度一様化された思考も持たない。各
人の違いを感じながらも、何か言葉に出ない
どこかでつながりを保っているから違ったA
BC, Now, XYZ, が現われても不思議はな
い。

我々のテーマは権力である。何か解決の出

来そうな問題であるのでこれにしておいた。

権力については種々な考えがある。

1. 権力は全て悪の根源である。
2. 権力も特定の時期必要である。
3. 権力は必要悪である。
4. 権力はずれるべきものである。

等々……

1~4に解決があるのか、5~∞に解決が
あるのか明確な見解をもっていても一度は取
っついてみたい問題でもある。

座談会を一応用意した。日本労働運動の過
去を知ろうという趣旨である。総評、同盟、
社会党、共産党、等々に歪曲されて来た労働
運動の過去を一部でも知ることは大切なこと
と思う。現体制(自称左翼を含む)により、
無名にされ続けて来た老闘士、新しき運動の
展開を模索する古強士の話聞いてみよう。

工学研究部

現在の大学におけるサークルについて論ず
る場合、特に電気通信大学という国立の中級
技術者養成機関的学校におけるサークルにつ
いて論ずる場合、現在の日本帝国主義の教育
支配を忘れてはならない。

現在の電気通信大学は自民党政府の文教政
策がストレートに(旧帝大等の場合、若干の
フィルターを通して)貫徹して来ている。そ
れらに対する学生の問いかけであった電通大
闘争は機動隊の暴力と民青の闘争破壊によっ
て圧殺されてしまった。このような状況にて
サークルはいかなる動きをなすべきか?この
問いに対して工学研究部は答えられない。

しかしながら我々はこの技術者養成工場の

ベルトコンベアーに乗せられることを拒否しようとする試行錯誤の中にいる。我々は既成体系へのアンチでなければならない。しかし原則論と現実論は通常同一ではなく、主観的意図とそれによる客観的事実は逆極性を有し易い。この矛盾を観念哲学はザインとゾルレンの思弁的範疇でとらえようとしたが、現実の経済社会機構を改変しなければならないことを証明したにすぎない。

現実のサークルにおいてもこの矛盾は存在し、これを解決するためには「大学解体」が最終的において必要である。我々は大学の内にありながらその大学を「解体」しなければ理想の実現を見られないのである。その「大学解体」の闘いには政治闘争が必要である。この闘いに誤って闘って自滅した者と、闘わないでいて腐敗した者、それらの者が大学にてサークル（調布祭実行委員会もその中に入るだろう。）にて活動をしている。

我々は以上のような否定的現状分析を行ったがこの負債はいつの日か必ず返さねばならない。サムソンのひげが再び長くのびて彼らの敵対者達を粉碎したように、

美術部

活動そのものが起源的に（本来的にはなく）“個人のそれ”であるものの一種の美術にとって、集団である一定の目的なり目標を追求するいわゆる大学サークルの中で、美術部として、サークルのわくの中にあるべき確信というものが今だにつかめていないのではないかと思う。つまり絵画その他を通して現実的かつ具体的に、そしてより積極的に自己

の意識を伝達できるものかどうかということだ。各自、自己の能力の範囲内で暗中模索している現状のままでは、外観上は形式的ではあっても、自己が何らかの意識で画いたものを第三者に、言葉なり、文章なりの媒介を経て伝達する事が、先に述べたことも含めて、技術的な面をも、それでカバーしてゆくことが我々には最低必要条件ではないかと思っている。

スキー同好会

サークルは、その目的とするものに対して、好みを同じくするものが集る事によって、その源とする。

その組織の必要性は多くの理由があるろうが
○その目的に対する運動をより深める。
○個では出来ないゆえの組織性の必要
○友を求める。

などがあげられるだろう。ここでは一般のサークル論について述べる力量も余裕もないし、文化サークル、運動サークルとではそれを若干異にするので後者に限って述べれば、あるスポーツに対して、興味を持ったものがそのサークルに入る、即ち、当クラブでは、スキーというスポーツを媒介として集まった人が、その結果、今までの個人まる出しの運動からスキー部という、組織体内での運動となってくるその集まってくる人の中には、ただなんとなくスキーがやりたくて入って来た人もあれば、その技術向上を目指してくる人もあるだろう。その目的とする所は千差万別でも、その人の行動は1つ1つスキー部の行動として、裏づけされる。運動部というものがそこ

まで個を束縛するものの必要性がどこから生まれるのであろうか……、私が思うにはスポーツのもつチームワークの必然性がそこにあると思う、およそチームワークと関係がない、いやむしろ、チームワークを必要としないスポーツはないと断言できる、それがあからこそ、運動部の特徴づけが出来るのではないかと思う。

最初は単に、共通集合としてのスキーでしかなかったものが、和集合としての、スキーに変わるなら、そのサークルは良しとされるであろう。But、運動部にとって、もう一つ忘れてはならないのは試合であろう、スポーツのもつ競争性ゆえ、とかく部の優劣が試合の勝敗によって決まる事実はともすれば部員間に、レギュラー、補欠の格差を生み出し、磨擦を生じさせる、この事を運動部の必要悪と見るなら、それまでかもしれないが、しかし、サークル活動全体として見るなら、はなはだやっかいな問題である、“かかげば日の丸”式の、運動方針が健全なサークル発展の道からづれてくる事実が、同好会等の気軽な、サークルを多発させる結果となってきた。

管弦楽部

オーケストラの構成員50数名は、それぞれの個性を持ち集って活動している。芸術派もあり、無気力な人間もいる。しかし、オーケストラ団員が集っているという基盤は大なり小なり音楽に魅かれているということである。音楽というものは、理論的には説明し切れないものである。それ故に団員それぞれも何か説明出来ないものによってオーケストラ

というクラブに引きとめられているというより、その中で活動しようとする。我オーケストラにおいては年2回の演奏会を持つが（他に学内で行う演奏会も多少あるが）ふだんの活動は、その演奏会のための練習に終わってしまう。それで年間の計画として、技術向上、音学的センスの向上も考え、グループをいくつか作り、室内楽を行うようにした。夏の合宿等にその発表会を持って成果を批評し合ったが、この調布祭においてもその発表の場を持ち、お客に聞いてもらうという、重要な要素が存在する事は大変有意義な事であると思う。又、去年の調布祭における我オケの音楽喫茶「シンコペーション」においては先輩とも親しくなり、ようやくオケの一員という感が深くなったような気がした。我オケにおいては初心者是一年間レッスンに通い、正メンバーにならないため、多少疎外感を味ってしまう。そのためにも、オケ全体で行う、この行事を行いたいと思う。我オケは電通大においては最大のクラブである。その人員の多さから発生する不満、又、音楽、曲を仕上げるという全体的統一、この両者を解決するという事は並大抵ではない、オーケストラ団員は、それぞれ自分が自覚を持ち、演奏において自分のPartを受持っているようにクラブ内部においても自分のPartをそれぞれに応じて受持たねばオーケストラは成立ってゆかない。曲を演奏するにあたって、各個人、各Part間の受け渡し、又、呼吸が合わなければいけないようにクラブ運営に関しても、同様の事が言える。又この事柄は、自然に起ってくる大変良い成果であるけれども大変厳しい義務でもある。この呼吸が合うというか、気心が知れるということのためにも、この調布祭という機会を利用したいと思う。

とにかく、オーケストラというクラブは、どの音楽クラブにも言えることだが「音楽好き」であるという事が最大理由となって入部した人間の集りである。

公害研究会（準）

「公害」というものを、新聞や雑誌紙上で昨今の第一の話題となっているが、この公害というものに対して、GNP 2位を誇る日本経済および現代資本主義体制の必然的な矛盾で、そこから公害はしかじか、何々ときめつけることは容易なことであろうが、しかしこのような定義は、あまりにも既存のイデオロギー体系を出発点として、これを単に加工するのみで、又公害について系統的叙述のできる独立の領域としてあつかい、自己矛盾のない内的関連をもった一つの調和のある体系として再構成したにすぎなく、このことは、イデオロギーのもつ伝統的保守的役割として、社会の進歩、つまり公害闘争における前進に対する保守的機能をはたしているように思われるのだし、ただ頭の内の観念として作用しているのにすぎないゆえに、前記のように公害闘争に対してなんら前進させるものはないと思うので、実際に公害に取りくんでいる東京一水俣病を告発する会の一員の文を紹介したいと思う。

『私は川崎市郊外の住宅地に住んでいる。そして大学のある神田駿河台に通学している。この東京から1.400キロも離れたところにある水俣で起きた水俣病は、目をつぶり、耳をふさげば生活の中に入りこむものではない。しかし私が入学したと同時に起った日大闘争

は、そうした人間の姿勢を拒否した。ただ単に授業を受け、社会の出来事などに一切タッチせず、就職するための卒業証書を得る生活を拒否した。大学という自分が生活する内部から起った矛盾は、その生活をする社会全体に対する矛盾へと目を向けさせ、自己を社会の中に存在する一個人として位置づけた。水俣病・五月東京抗議行動は、この社会との初めての接触としてあった。68年から始まる日大闘争と同時に進行していた、安保・沖縄闘争へのかかわりは、自分にとってその社会に対する主体的かかわりでなかった。昨年、祖父は私に、「今までこれだけやったのだからまた来年6月もやらなきゃ気がおさまらないだろうが。義理でもやらなくちゃなあ。」と話した。それに反発した私も、結果はそれでしかなかった。こうした中で眼前にある水俣病闘争は自分にとって安保・沖縄よりも、また日大闘争よりも鮮明なる問題として存在した。こうしてかかわり出した水俣病闘争の中で多くの人々と触れ合い、その人々から逆の提起を受けた。5月25日の前の準備会で熊本の渡辺京二さんは、「我々は全存在をかけて、補償処理委員会を阻止する！」という言葉で全身に怒りをこめて語った。その時、自分は、たじろいた。この水俣病の闘いの中には、文字通り患者さんと、地獄の底までつき合う人々が存在しているのだ。さらに患者家庭互助会の代表である渡辺さんは、「私達のためと思わず一人一人のためと思って下さい。私達のためだけでしたら飽きが来ます。飽きがきたら勝つことは出来ません。」と告発する会発表式で挨拶していた。こうしてつきつめる言葉は、自分の目前に真白な空間を与える。自分は全存在を投げうってまで水俣病にかかわることは出来ない。もし全存在を

かける、患者のイカりを自分のものとして闘うのだ、等と言ったら、自分に対して、あるいは、患者のみなさんに対しても裏切り行為としかならないであろう。またそのうち飽きがきてしまうから。そして、それからの提起は、自からの存在における生活基盤における、あらゆる矛盾に対する追求をしえずして、水俣病とかかわることは出来ないことを意味した。あたりまえであること、自分の人間としての弱さが忘れさせてしまう。あたりまえであることを徹底的に追求する強い人間を最大の友としたい。自からの存在する生活基盤における矛盾とは、今の自分にとって家庭と大学と東京という地域に存在する。ここで地域というのは、自分の生活が、いくら通信、交通が発達したからといえ、地域による制限を受けざるを得ないと考えるからである。水俣病によって知り得た公害というものは、まさに人間の生活基盤を破壊し、死へと導く。東京でも、ありとあらゆる型で見い出されるのである。公害闘争というのは、公害の発現する地域における住民による、地域的追求をする中において、全国各地との地域連帯をしてゆかねばならない。そうすることが、この社会の矛盾に対する闘いを勝利へと導くものであると思う。観念的に考えざるを得ないことを、水俣病闘争は、現実的・具体的に遂行しているように思う。』

またこの水俣病の8ミリフィルムは3巻あり、第1巻は昭和32、3年頃当時水俣保健所長だった伊藤氏が、患者をはじめネコ実験などを撮影したもので、学問的にも貴重なもの。また原因のわからない時期のもので、やせおとろえてベットに寝たきりの患者の眼は不安そのもの。またネコ実験では、水俣湾から採れた魚貝類を食べさせられたネコが神経

を犯れていく様子が刻明に写されている。平衡感覚を失いミカン箱からさえ降りられず転げ落ちたり、発作であたりかまわず突入してのたうちまわる様子がみられる。他の2巻は、グループ8というチソ労働者が長年にわたって取り続けてきた記録フィルムである。この8ミリはテレビなどのマスコミと同じと思うかもしれないが、しかしこの8ミリは、テレビなどのように影映にたずさわる人間がただその事件がセンセーショナルがゆえに、報道という価値があるゆえに、それを第三者たる人間が映像を媒介として視聴者にその事件の表面をあたえているものとはことなる。この8ミリは、水俣病というものが、マスコミの目にとまる前からこの病気にとりくみ、マスコミには絶対不可能な、時間的長さ及び患者たちと一体となろうとして、その8ミリを回して来たということは、この8ミリを通して、マスコミとは違った、この「公害病水俣病」の内面をみなさんの心にはっきりと映し出すと思う。当日11月7日(土)には、東京・水俣病を告発する会の一員に来ていただき8ミリの説明をしていただく予定です。また全日本学生写真連盟の方々に、彼等の全国における公害パネルを並行して、調布祭の期間中に展示する予定です。

前期執行委員会中間総括

(序) 我々が、まずもって、何をメルクマールとして立候補したかということを中心にまとめておくと、6月闘争が'60～'70年代の転換局面の極限的なものを出発するであろう、であるが故に我々は、電通大闘争がかかえていた闘争それ自体の矛盾の潜在性をも顕在化させることによって、個別電通大闘争の転換の萌芽と日本階級闘争の転換の萌芽とを見出し、新たなる政治のあり方と階級の存在様式を物質化しなければならないのだということである。従って主要には、6・13～6・23安保一沖縄政治ストライキを総括の中心基軸としながら、67年羽田闘争以降の激しい闘いと、68年12・20本館占拠以降の電通大闘争及び69年1・18、19に象徴される諸学園闘争での全共闘運動の総括を自己との関わりの中から提出してゆけたらと思っている。我々は、マルクスが具体的な生きた人間から出発した、その地点から、ちょっとばかり色合いの異なる方向へ旅立たなければならないような状況にいたのである。このことを確認した上で進んでいきたい。

例えば日共＝民青は、6月23日以降は、安保条約を国民多数の声を結集させれば廃棄することができるようになるから、6月23日は大衆が参加すべき歴史的な日だなどと、彼等のオポチュニスト性を露骨に表わし、人間主体などと、今までの我々の運動の高揚の中から、彼らにはまるっきりわからないことをただ政治的に言い出し始め、案の定人間が何故国家や市民、あるいは両方に疎外された存在としての存在などの如く諸々の存在の仕

方にわかれざるを得ないのであるが、まったく見当がつかず、ただただ、相も変わらず、民主勢力（非暴力的勢力というなら、完全な矛盾である、彼等は武装した集団であり、到る所で、テロ・リンチを行なっているから故）の団結という文句を唱えているのである。そして、国家＝法＝市民社会＝人間を結ぶ糸が何なのであるかと考えることもなく、法を守る人間＝民主的人間などと、我々が転倒させなければならない現在の意味的世界と価値的世界の逆立した関係をそのまま肯定した上で、すべてを出発させているのである。彼等のいう人間主体などは、抽象的な人間＋奇形的ブルジョア個人主義でしかないのである。そうだから、我々がいう暴力の階級性なんていうのは全然わからないし、彼等自身が振り暴力が、権力と同一レベルでの暴力であるということすら自覚できないのである。このことは、個別電通大闘争の過程を見てみるだけでも明白である。たとえば彼等の運動は、電通大の拡充計画におおざっぱな方向性であり、学友に対しては、法（秩序）的人間になることを呼びかけているのである。そして、大学の共同幻想を遵守しようとするのである。たとえば、みんなの生協という形で、日共＝民青の生協運動をやっている、日共＝民青運動への打撃が、あたかも学友全体への打撃であるかの如き幻影をばらまくのである。みんなの……などというのは、幻影にしかすぎないのである。彼等には市民社会内部で、日帝に代わる政策を出して、権力をとればよいのであって、政治的国家と人間との関わりなどというのは眼中にないのである。要するに国家はなくならないのである。そして彼等の反革命集団としての性質は、10；8羽田＝東大＝京大＝11・16、17蒲田な

どの自警団 etc を見ても解るのである。

我々は彼等とは逆に、自己の生活を暴力化することを通して、市民社会の外から、現在の意味的世界一価値的世界の逆立、即ち国家一市民社会の逆立した関係の逆倒を行なうのであり、それ故にこそ、階級の形成が問題となるのである。まさにそういう視点から、6月以降（執行委員会選挙以降）の闘いは行なわれたのである。6・13～6・23に限ってだけいっていても、あの梅雨の時を、全学ストライキ実行委員会に結集した主体的に闘争を担う部分と結合する中から、暴力の階級性を踏まえつつ、自然発生的暴力の質を、一歩軍事へ飛躍させた地点に遊撃団を組織し、権力一右翼の一体化したストライキ破壊を断乎として実力粉碎し抜き、かつ、その間に、自主講座を開くことによって、社会総体のビジョンを学びながら、11日間にもおよぶストライキを貫徹したのである。更には6・14及び6・23には、百数十名の部隊でもって中央集会に決起した。そして現在の階級闘争の混迷の中に自ら入ることによって70年代の新たなる階級闘争の戦線を、60年代のあらゆる革命論・運動論・組織論を、その発想・基礎カテゴリーから問い返す所から行なっていかなければならないことを確認したのである。60年安保のくり返しであってはならないのだ。古い政治は破壊しなければならない。今、必要なのはひからびた過去の追懐でもなければ、明るい未来の希望でもない。死に絶やさなければならない運動を、組織を言葉で、政治を埋葬し、豊かな開かれたイメージの中に、新たなる運動を、組織を構築することである。

この総括は、以下のように展開するつもりである。

- (1) 総括するに際して確認すべき点
- (2) 総括すべき現実的な問題点
- (3) 総括する視点
- (4) 総括
- (5) 今後の闘争の方向性
- (6) 調布祭への我々の視点

(1)

(イ) 戦後過渡期世界の構造と、市民社会一国家の亀裂の中に資本制社会が生み出した矛盾は何か。

(a) 第2次世界大戦を優位的に勝利した米帝は、生産力一軍事力の圧倒でもって政治的一経済的ヘゲモニーを確立した。それは、経済過程にあっては、戦時に確立した超重化学工業と資本力により、IMF通貨体制による統一世界市場の確立とその支配・指導能力と軍事的には、核武装と軍事力の強大さ、そして、政治的には、第2次帝国主義戦争の勝利を反ファシズム＝民主主義の勝利という幻想化、以上の相乗的な支配力の上で米帝の一元支配という様相を呈したのである。更に、労働者国家に対しては、経済封鎖及び軍事包囲、そしてイデオロギー的な分断を行なったのである。そして、戦後、つぎつぎと政治的な独立を勝ち取っていった旧植民地国家＝第3世界に対しては、反革命と解放の民族的な枠をはめ、統一世界市場への包摂による商品一資本輸出による収奪一搾取を行ったのである。そして、以上総体を世界の政治一経済発展の先端としてのアメリカと、幻想化したのである。

(b) 一方、ソ連を中軸とする労働者国家にあっては、コミンテルン以降の世界の階級闘争を、ソ連自身の利益と外交政策へと従属さ

せ、戦後の世界革命戦争の嵐を対帝国主義へのソ連圏の拡大と歪曲化し、更には第3世界の闘争を民族解放への枠に留め、第2次世界大戦での勝利を、反ファシズム＝祖国防衛の勝利として、社会主義やプロレタリア国際主義へと幻想化したのである。

(c)更に、旧植民地諸国に於ては、戦後諸帝国主義国家から民族解放＝政治的解放を行わない国民経済の建設に着手しなければならなかった。そして、弱い資本力を踏まえて、一国的には、私的一国家的所有として、国家資本主義的性格を帯び、世界的には第3勢力論として表出していったのである。即ち、このことは、もはや戦前の植民地－帝国主義という結合が、そのような関係としては、戦後、出発できなかつたのである。

(d)以上をまとめてみると次のようになる。下部構造では、統一世界市場－ソ連圏－第3勢力（基本的には、統一世界市場に包摂）という関係である。

上部構造では、ヤルター国連＝平和共存という関係である。

そして世界構造を貫徹する矛盾は、上部－下部構造総体の私的－擬似共同体的所有の内にあるのである。

(ロ) 朝鮮戦争を経た50～60年代相対安定期は、矛盾の累積する時代であった。

(a)諸帝国主義の重化学工業の同質化は、生産力不均衡の是正を要請し、先進国－後進国市場の分割を促がした。そして、軍事的には、核武装をめぐるヘゲモニー争いに集中した、更には、IMFの動揺が、統一世界市場の危

機をもたらし、労働者国家や第3世界への対応から、諸帝国主義国家は、同盟しつつも矛盾を累積させたのである。

(b)一方、労働者国家群にあっては、ソ連を軸とする統一経済機構が、各国の生産の矛盾とその民族的表現、ヨーロッパ諸帝国主義国家の市場浸透及び第3世界の解放闘争への支援をめぐる対立したのである。そして、私的所有→擬似共同体所有（国家所有）の強調は、プロレタリア独裁＝党独裁という決定的な誤謬を生んだのである。

(c)第3世界では、IMFの動揺と統一世界市場の競争激化が、国民経済の破綻をもたらし、第3世界は、3つの方向へと分解していったのである。即ち、①反革命による帝国主義国との結合、②第3勢力の保持、③民族解放－社会主義革命である。

(d)世界構造総体としては、米帝が巨大な環として存在していたのである。つまり、米帝の擬制的普遍性を特殊に存在させてきた政治構造として。

(ハ) 世界の経済的再編の動向と環

戦後世界の経済過程における転換のメルクマールとして、EECの形成－発展と米帝の相対的地位の低下及びドル・ポンド危機 etc。

(a) 60年初頭～中期の相対安定期の転換期

①米帝の経済過程での相対的ではあるが弱体化＝58年EEC結成に始まる欧帝の強蓄積と集積による米帝との超重化学工

業を主体とする生産及び蓄積様式同質化が基礎。つまり、米帝—E E Cを軸とする欧帝の対立による経済構造の再編→ドル・ポンド危機はその表現である。

②IMF—GATTを軸とし、ドル・ポンドを国際管理通貨とする世界市場の連環の中に存在していた、後進諸国が、帝国主義列強の資本の集積の結果、内存的破綻と資本投下の削減となり、危機と再編に突入。

③ソ連を軸とする労働者国家の統一市場及び経済機構が、各国の生産と資本の集積の過程を通して解体—再編に入った。

④58年欧帝の戦後復興の完了と通貨の交換性の回復に始まる自由化は米帝の戦後過程に於ける資本と生産の集積の圧倒的優位が相対化してゆく過程であった。この米帝の圧倒的優位の相対化の過程は諸帝国主義列強の資本と生産の集積の不均等発展の不可避な、必然的帰結である。

ヨーロッパ・日本の民間設備・投資主導型経済による高度成長は、米帝の超独占体の技術革新力の波及による巨大な投資と米帝の相対化の過程により、世界経済への成長・転化を果してきて、58年に到る戦後復興と異なる恐怖からの圧力の回避の象徴なのである。→①米経済の国民経済的性格と世界的性格の一定の解離が、この過程で始まる。⑤58年以降の過程でのドル危

機は、世界体制としての帝国主義の枠を超えて投下するも、そこから得た超過利潤をドル媒介として国民経済へ還元することができなかった。つまり、国民経済の優位性の下に確立していた国際管理通過としてのドルが危機にあったのであるから、信用構造の動揺の中で獲得された超過利潤は、ユーロダラー化したのであり、超独占体の危機は、不断の信用構造の動揺とユーロダラー化した過剰資本の回転の方向であり、この回転のための国民経済のテコの問題であった。注…①～③を不均等発展—レーニン帝国主義論=危機一般としてはならないのである。

(b)60年代後半～70年経済再編の動向
(省略)

(c)結 論

58年以降の過剰資本—信用恐慌の圧力を欧・日への技術革新と設備投資による高度成長でもって吸収—回避してきた過程から新たな地平に突入しつつ、同時に、この過程で形成してきた後進国—労働者国家の危機をより深めつつ、経済的再編を遂行するより仕方がない。そして、この経済的再編は、政治的—社会的再編として展開されるより他ない。帝国主義諸国は、これを解決する展望を持たないのである。

(一) 戦後世界の政治的再編の動向と中心環
(省略)

(二) 以降全部省略

(2)～(5) 全部省略、省略部分に関しては、後

日、電通大新聞等を参照して下さい。
(内容は軍事問題、党派闘争問題など。)

(6)

調布祭が、今まで有していた所の、大学の共同幻想に依拠した性格を、我々は、電通大闘争の総括をやり抜く中から払拭しなければならない。調布祭は、実行委員会の手によって、新たに、階級闘争の一表現として展開されなければならない。その要となるのこそ、まさしく、階級形成の視点に立った時の運動の構築であり、それは、今までの祭の概念の破壊である。

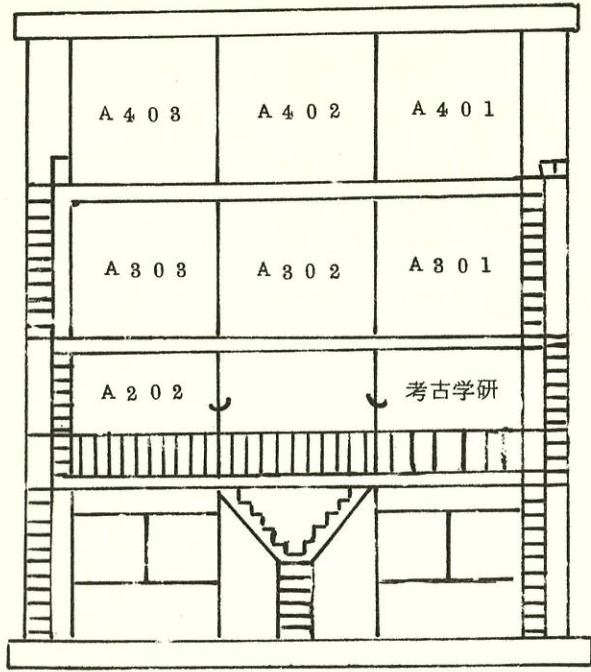
第20回調布祭は、日共一民青の欺瞞的大学祭論を粉碎し、新たなる運動の方向性を伴いつつ開催されなければならない。我々の主張に関しては、実行委員会との連名でヒラを配布したので、それを見て欲しい。また、より詳しい調布祭への我々の方針は、実行委員会との合同討論・活動などで、既に、第20回調布祭の方針などにでているので、そちらを参照して下さい。

スーパーマーケット

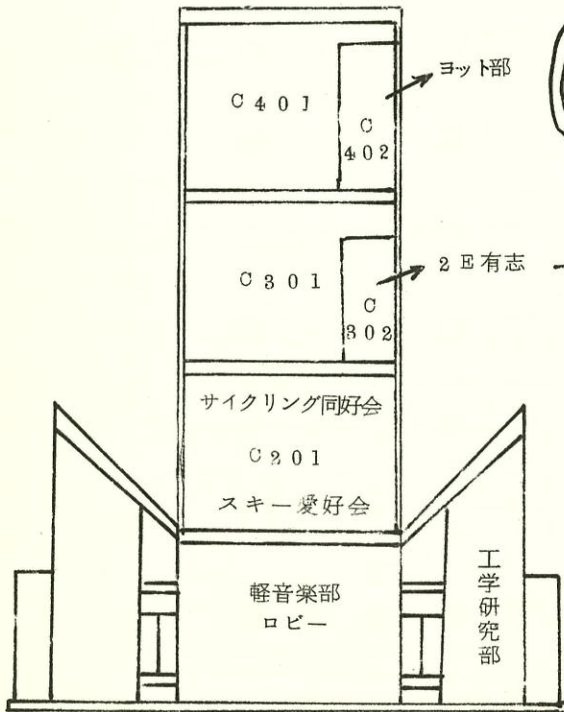
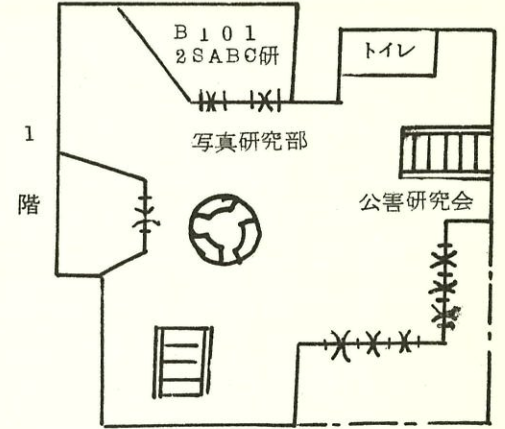
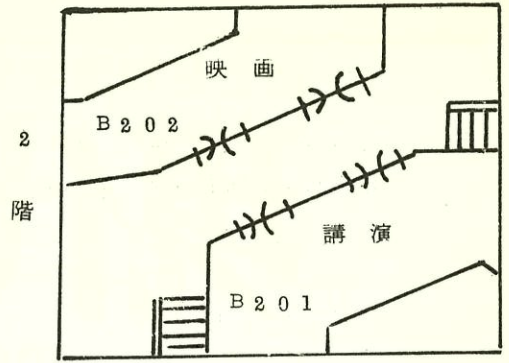
AFS 朝日屋

調布市小島町171

TEL (0424) (86) 0125(代)



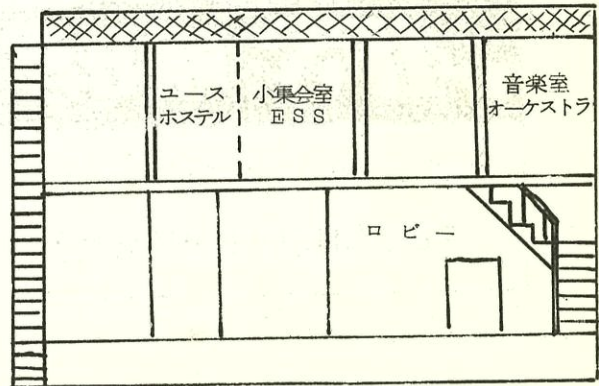
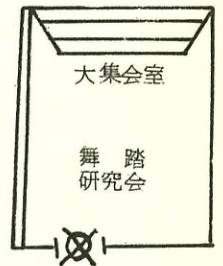
A 棟



C 棟



文学同好会(短)



総合月刊誌—先駆する若き知性!

現代の眼

東京・京橋3-11 現代評論社 毎月7日発売

構造

十二月号・一六〇円

特集 ■ 吉本隆明論

自責の鞍部……………村上一郎

拒絶のナシヨナリズム……………桶谷秀昭

《自立論》と観念の《革命》……………立原信弘

吉本の政治思想と二元的革命論……………大熊五郎

吉本隆明の大衆像……………河野信子

自由への道 前段階蜂起の総括……………花園紀男

永続世界革命と民族解放戦争……………佐野茂樹

マルクス主義の日本的確立の
ための一視点……………香田清亮

マックス・ウェーバーと社会
科学的認識の可知性……………神谷玲

現代日本映画作家論(10)

「新藤兼人」……………佐藤忠男

経済構造社 東京都中央区京橋二の四
電話(二七)二六五九

近代科学社の新刊図書

… 図 書 目 録 送 呈 …

大岡茂編
無線従事者用無線工学用語辞典 近 刊

カンバタ著・山下博典訳
LSI 入門 1,300円

ミンスキー著・金山裕訳
計算機の数学的理論 2,400円

コリン著・石井正博訳
マイクロ波工学(上) 2,400円

カメンジンド著・斎藤正男訳
集積回路の設計 1,900円

クームズ編・安達芳夫他訳
プリント回路ハンドブック 3,900円

室住熊三著
第1級無線技術士用電気物理 1,900円

室住熊三著
第1級無線技術士用電気回路 (上) 1,500円
(下) 1,300円

阿部満夫著
第1級無線技術士用電子管 1,900円

博田五六・石井正博著
第1級無線技術士用電気磁気測定 580円

相馬正樹著
第1級無線技術士用電子管回路 1,600円

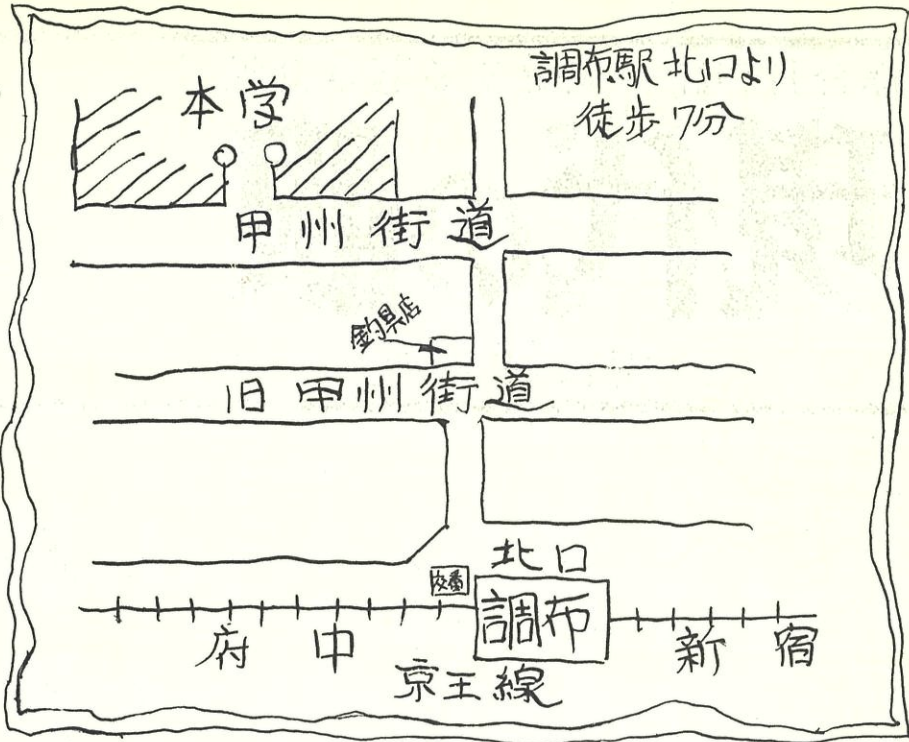
杉山利光・渡辺功・沢田順弘著
第1級無線技術士用無線機器 (上) 2,300円
(下) 近 刊

大岡茂著
第1級無線技術士用空中線及び電波の伝わり方 1,200円

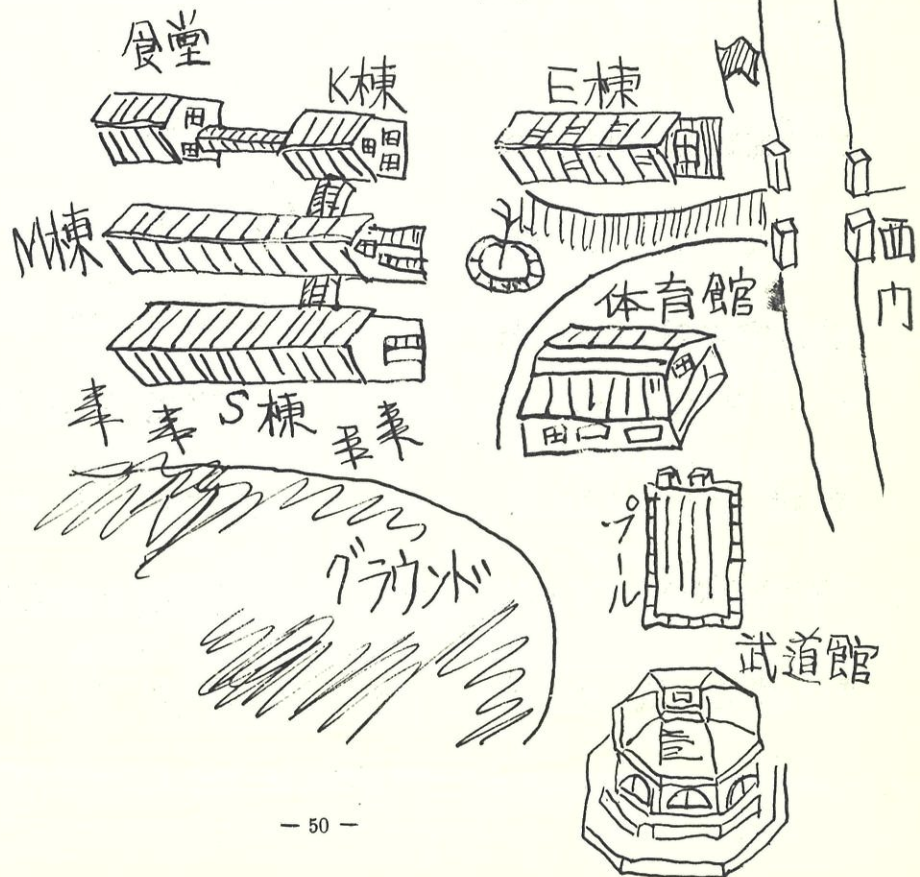
博田五六・石井正博著
第1級無線技術士用無線測定 1,600円

東京都目黒区下目黒1-7-18・振替(東京)7625・電話(491)4147 近代科学社

バス(三ノ調布) 電通大前
吉澤寺



調布寮



校内案内図

学友会棟



黒会

実行委員会室

庄協ホ一

学館

G棟

三六
↑ 三六街道

E棟

D棟

L棟

B棟

西門

P棟

M棟

C棟

旧B棟

A棟

↓ 調布

工事中体館

受付

甲州街道 → 新宿

富士銀行調布支店の御好意をよせていただきました。同銀行調布支店に於いては、日頃から、奨学金・授業料などに関して、お世話になっており、今回の御好意に対して、厚く感謝の意を表したいと思えます。

電気通信大学
第20回調布祭

発行者 第20回調布祭実行委員会

発行日 1970年11月6日

住所 東京都調布市小島町14
TEL 0424(83)2161
内線558

印刷 株式会社けやき印刷
TEL 0424(86)0660

生徒一人一人の能力や個性に適した教育を 個人別教育システム「CAI」を完成！



日立は、先生と生徒に人間的なふれあいの時間をタップリとれる「個人別教育テーピングマシン」を開発し注目をあびています。小形コンピュータを使って、理想的な学習内容を生徒それぞれの能力に応じて、自動的にすすめることができます。

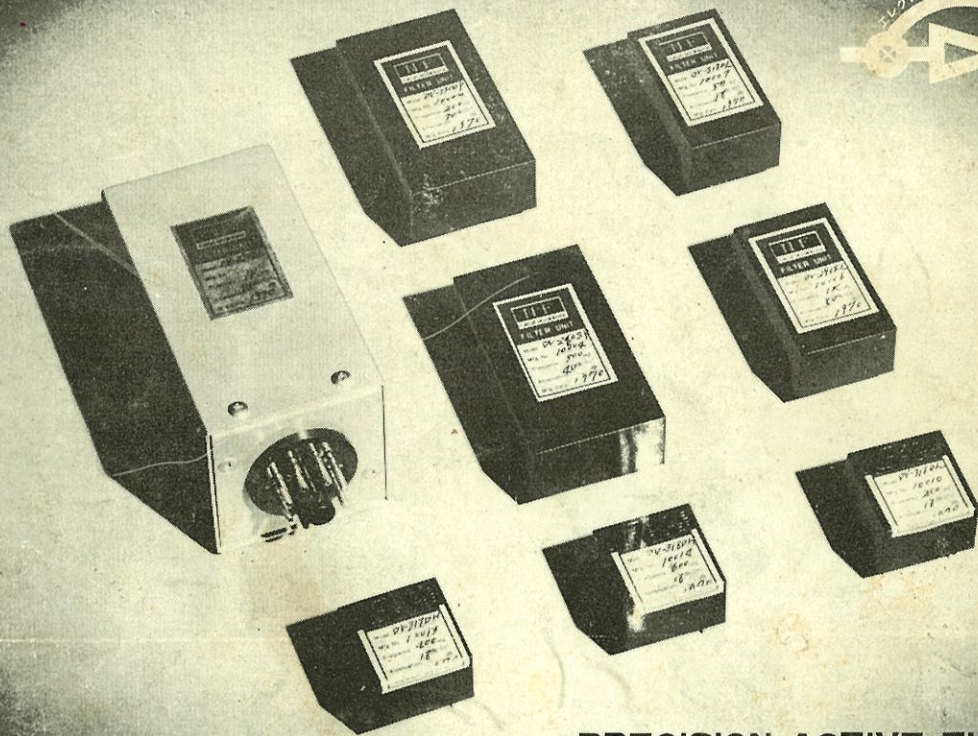
先生と生徒は、より人間的に、より充実した個人教育をうけることができます。「CAI」個人別教育システムは、企業内教育用として活用されはじめています。すでに日立では、新入社員のためのコンピュータ教育用プログラムを完成。未来の教育についても、たゆまぬ努力をつづけています。



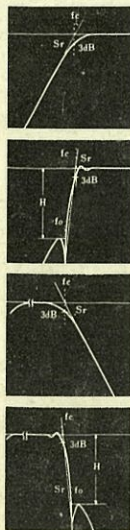
技術の日立

現代はCRモジュール型の時代です

LCフィルタの時代は去りました



PRECISION ACTIVE FILTER

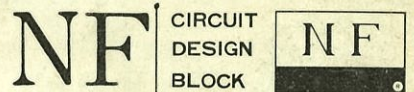


本フィルタユニットは、固定周波数のCRフィードバック型フィルタで、オクタールベース角型、及び、グリッドパターン
のモジュラー型(2.54mm \times 0.1インチ間隔)
があり、全てプラグイン式で、ソケットに
よる取付ができます。また、モジュラー
型はプリント板への直接取付もできます。
特性は、正確かつ安定な0.1Hz \sim 50KHzに
およぶ遮断周波数、50K Ω \sim 100K Ω 、また
はそれ以上の高入力インピーダンスをもち、
そのうえ、通過帯域特性は \pm 1dB
程度と平坦で、リップルが非常に少なく
挿入損失も殆んど零に等しいという完全
な設計です。

遮断特性は12dB、18dB、24dB、30dB、36dB、
80dB、120dB/oct.と、極めて有効的
にまとめてありゆるやかなものから急峻
なものまで製作しています。
特に、フィードバック型アクティブ・フ
ィルタは従来、盛んであったCR型、L
C型にくらべて、小型、軽量、廉価とい
う特長をもち、さらに外部誘導などに
よる特性悪化も全くありません。

種類.....

- ハイパス・フィルタユニット
- ローパス・フィルタユニット
- バンドパス・フィルタユニット
- バンドエリミネーションフィルタユニット
- 遮断周波数は当社規定の範囲内において自由に御指定いただけます。



株式会社 エヌエフ回路設計ブロック

本 社・東京都大田区山王2-36-12東陽ビル
☎ (03) 775-0411 ☎143
工 場・東京都大田区山王4-18-11
☎ (03) 772-8721 ☎143
多摩出張所・東京都立川市柴崎町4-6-28
☎ (0425) 24-5217 ☎190